

Sanei Layout Designer2 for Windows

ユーザーズ・マニュアル

2024年5月27日 Rev1.08

このマニュアルはSanei Layout Designer2 に関する、お客様が Windowsアプリケーションの構築に必要な設計ガイドラインを示しています。



本書の改定履歴

改訂 Rev	日付	改定内容
Rev 1.00	2020年5月26日	初版リリース
Rev 1.01	2020年7月15日	RAWデータ（印字イメージ）及びBMP（印字イメージ）ファイルが保存可能になりました。
Rev 1.02	2020年10月9日	オブジェクトの回転についての機能を追加しました。 1次元バーコードのHRI文字についての機能を追加しました。 複数移動や複数削除でのアンドゥも複数指定で可能となりました。
Rev 1.03	2021年5月28日	表紙の体裁を変更しました。
Rev 1.04	2022年9月13日	対応OSにWindows11を追加しました。 「10. スタンドアロンモードマクロ登録機能」を追加しました。
Rev 1.05	2023年2月8日	マクロ機能の文字列仕様を拡張しました。 WLAN印刷時に文字化けする事があったので修正しました。 画像を単純2値で縮小する時のロジックを変更しました。
Rev 1.06	2024年2月6日	対応プリンタにSK5-31シリーズを追加しました。 環境設定に「ページモードを使わない」のチェックボックスを追加しました。 プリンタテキストオブジェクトは、2行以降も印字できる様にしました。 「5-4. ステップ移動」を追加しました。 スタンドアロンマクロに「ブザー音の設定」を追加しました。
Rev 1.07	2024年3月6日	一部のシステム言語では、画面レイアウトが正しく表示されない場合があった為、修正しました。
Rev 1.08	2024年5月27日	SQRC (Security QR Code) に対応しました。

ご注意

- ・ Sanei Layout Designer2は三栄電機株式会社（以下、三栄電機といいます）の著作物であり、本製品にかかる著作権その他の権利は三栄電機に帰属する。
- ・ 三栄電機はSanei Layout Designer2に対応する三栄電機の製品を利用する目的で使用者に使用する権利を許諾（コピー及び配布は自由）する。
- ・ 三栄電機はSanei Layout Designer2に関して欠陥がないこと、このマニュアルに記載されている情報の使用に起因するいかなる損害に対しても責任を負うものではありません。
- ・ 三栄電機はSanei Layout Designer2の使用に関連して生じる直接的または、間接的な損失、損害などについていかなる場合も一切責任を負わないものとする。
- ・ 使用者は日本国政府、または該当国の政府より必要な許可等を得ることなしに、Sanei Layout Designer2の全部または一部を直接または間接的に輸出することはできません。

三栄電機株式会社 2020

無断転載を禁じます。

本書の内容は断り無く変更することがあります。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの、米国、日本及びその他国における商標です。

SQRCは、株式会社デンソーウェーブの商標です。

商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されます。

その他の製品名及び会社名は、各社の商標または登録商標です。

目次

1. 概要.....	6
1-1. 機能概要.....	6
1-2. 動作環境.....	6
2. アプリケーションの起動と終了.....	7
2-1. アプリの起動.....	7
2-2. アプリの終了.....	7
2-3. 画面の説明.....	8
3. ファイル (F).....	9
3-1. 全体.....	9
3-2. 新規作成.....	11
3-3. 開く.....	11
3-4. 上書き保存.....	11
3-5. 名前を付けて保存.....	11
3-6. シリアル番号全初期化.....	12
3-7. 用紙設定.....	13
3-8. 印刷.....	14
3-9. 環境設定.....	14
4. オブジェクトの挿入.....	17
4-1. 概要.....	17
4-2. テキスト.....	18
4-3. プリンタテキスト.....	23
4-4. 画像.....	26
4-5. 直線.....	28
4-6. 矩形.....	29
4-7. 塗り潰し.....	30
4-8. 1次元バーコード.....	31
4-9. 2次元バーコード.....	34
4-10. ドキュメントマクロ.....	38
5. オブジェクトの変更.....	39
5-1. フォーカス.....	39
5-2. プロパティの変更.....	39
5-3. 移動.....	39
5-4. ステップ移動.....	39
5-5. リサイズ.....	40

5-6. 直線オブジェクトの始点と終点の移動	4 0
6. クリップボードの編集と削除	4 1
6-1. 概要	4 1
6-2. 画像の貼り付け	4 1
7. 編集エリアの表示	4 2
7-1. 拡大・縮小	4 2
7-2. グリッド表示	4 2
8. オブジェクトの選択	4 3
8-1. 概要	4 3
8-2. 操作	4 3
9. マスク機能	4 5
9-1. 概要	4 5
9-2. マスクの指定	4 5
9-3. マスクの解除	4 5
10. スタンドアロンモードマクロ登録機能	4 6
10-1. 概要	4 6
10-2. 起動	4 6
10-3. マクロコマンドリスト	4 8
10-4. QRコードフォーマット	5 1
10-5. マクロ登録例	5 2
11. レイアウトデータの作成サンプル	5 4

1. 概要

1-1. 機能概要

本ソフトウェアでは画面上に図形やバーコードなどをレイアウト配置でき、プリンタドライバを介して対応プリンタへ印字ができます。作成したファイルはフォーマットデータ（ファイル形式 *. sop）として管理が行えます。配置される部品はオブジェクトと呼び、以下に分類されます。

- ・ テキストオブジェクト
- ・ プリンタテキストオブジェクト
- ・ 画像オブジェクト
- ・ 直線オブジェクト
- ・ 矩形オブジェクト
- ・ 塗り潰しオブジェクト
- ・ 1次元バーコードオブジェクト
- ・ 2次元バーコードオブジェクト
- ・ ドキュメントマクロオブジェクト

1-2. 動作環境

対応OS : Microsoft Windows 10 日本語版
 Microsoft Windows 11 日本語版

対応プリンタ : SM1-21シリーズ
 BLM-80シリーズ
 SM2-41シリーズ
 SM3-21シリーズ
 SM4-21/31シリーズ
 SK1-2x/3x/4xシリーズ
 SK4-21/31シリーズ
 SK1-2x1/3x1シリーズ
 BL2-58シリーズ
 SD3-21/22シリーズ
 SK5-31シリーズ

本ソフトウェアツールのご使用には、NET Framework 4.5のインストールが必要です。

2. アプリケーションの起動と終了

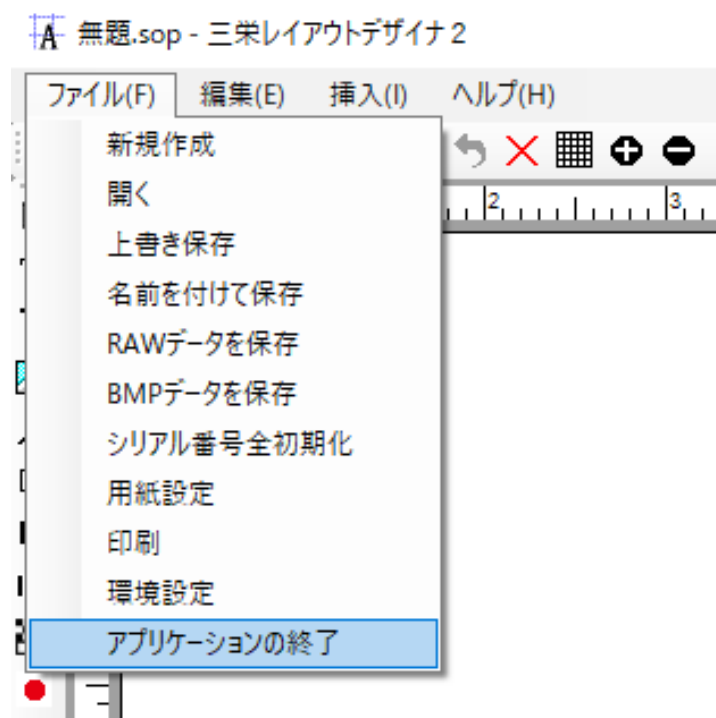
2-1. アプリの起動

下記のアイコンから LayoutDesigner2 を起動します。



2-2. アプリの終了

ファイルメニューから「アプリケーションの終了」を選択します。



2-3. 画面の説明



メニューバー：

ファイル、編集、挿入、ヘルプで示すメニューバーを指します。

ツールバー：

ツールアイコンで示すツールバーを指します。

編集エリア：

レイアウト編集のためのドキュメントエリアです。
この編集エリア内にオブジェクトを配置し、印字レイアウトを作成します。

リストテーブル：

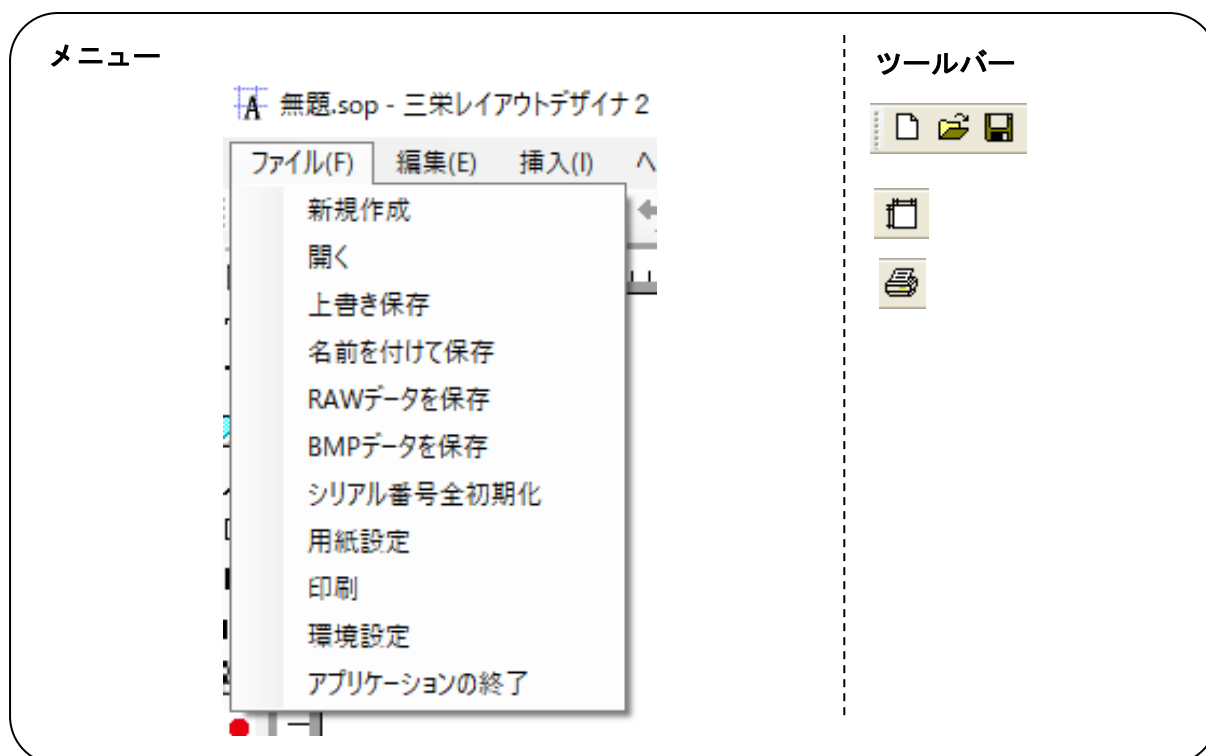
編集エリア内に配置されているオブジェクトに対してマスクやオブジェクト選択を設定するためのリストテーブルです。

テーブル切り替えリスト：

リストテーブルの機能を選択します。

3. ファイル (F)

3-1. 全体



新規作成 :

レイアウトファイルを新規作成します。

開く :

保存されているレイアウトファイルを開きます。

上書き保存 :

現在開いているレイアウトファイルを上書き保存します。

名前を付けて保存 :

名前を入力したファイル名でレイアウトファイルを保存します。

RAWデータを保存 :

RAWデータ（プリンタコマンドを使用した印字データ）を保存します。

BMPデータを保存 :

印字データをBMPデータに変換して保存します。

シリアル番号全初期化 :

レイアウトファイル内に登録されているシリアル番号を初期化します。

用紙設定 :

プリンタ選択機種から用紙設定に応じた編集エリアを設定します。



印刷：

レイアウトファイルを印字します。

環境設定：

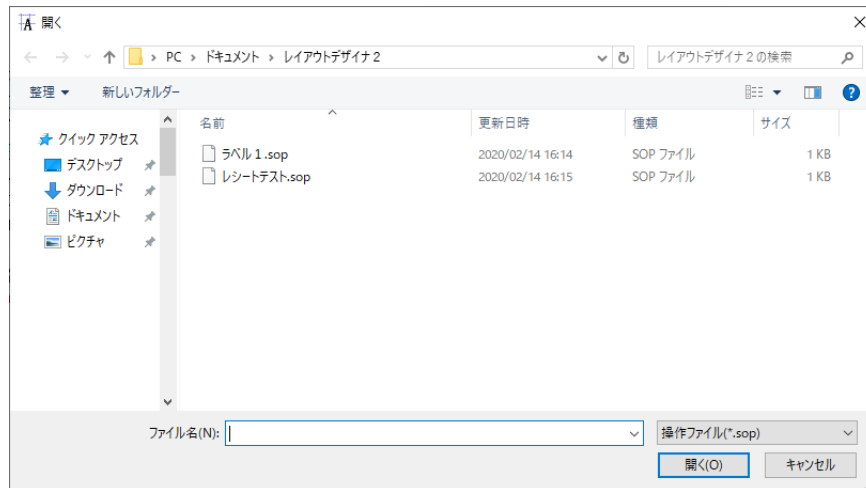
レイアウトファイル内で使用する文字コードを設定します。

3-2. 新規作成

新規の編集ウィンドウが開きます。

3-3. 開く

ファイルウィンドウが開き、保存されているレイアウトファイルを開きます。

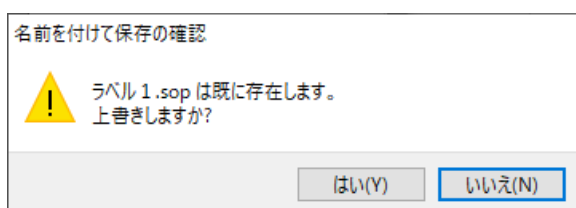
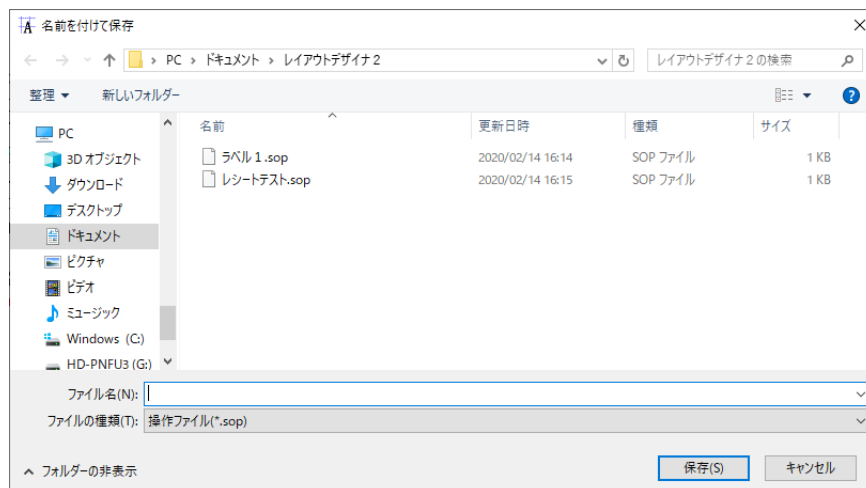


3-4. 上書き保存

現在開いているレイアウトファイルを上書き保存します。

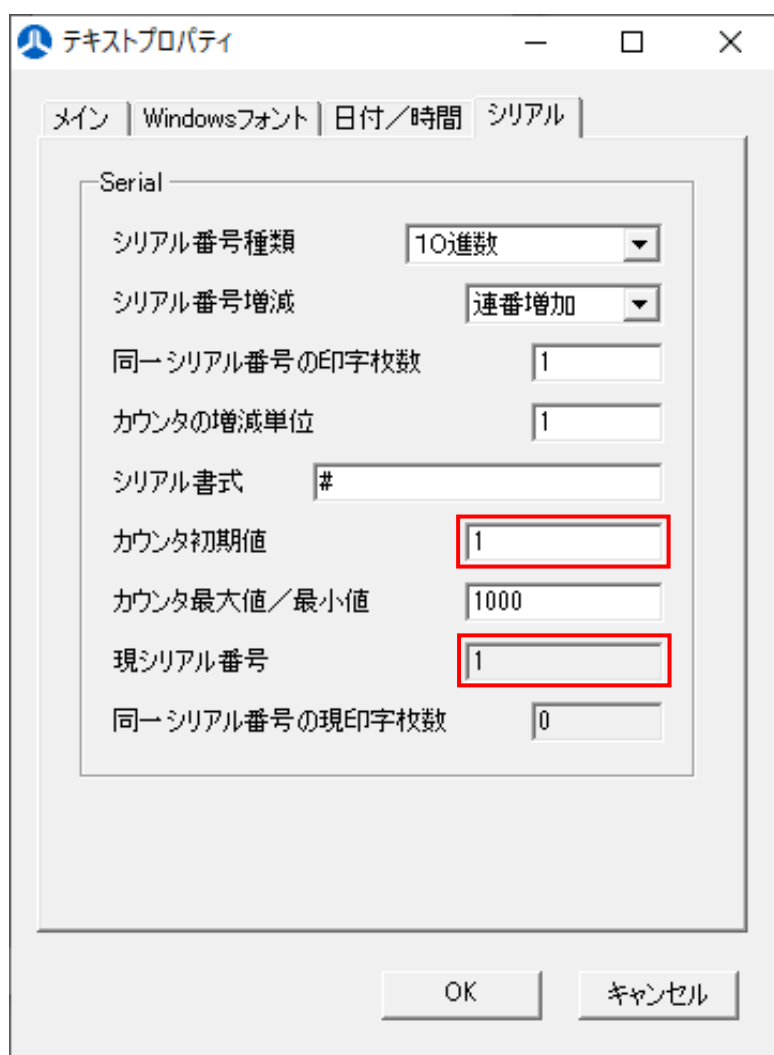
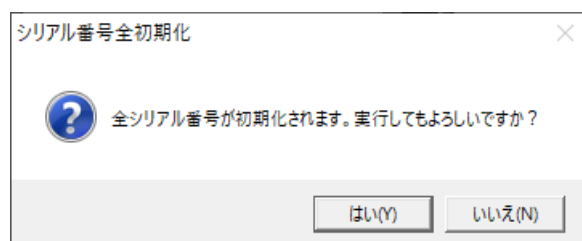
3-5. 名前を付けて保存

ファイルウィンドウが開き、名前を入力したファイル名でレイアウトファイルを保存します。
既に存在しているファイル名を選択した場合、上書き保存します。



3-6. シリアル番号全初期化

ダイアログが表示され「はい」を選択すると、レイアウトファイル内に登録されているシリアル番号を初期化します。



3-7. 用紙設定

ダイアログが開き、プリンタ選択機種から用紙の設定情報に応じた編集エリアが設定されます。
「OK」ボタンのクリックにより、編集エリアが切り替わります。

用紙設定

プリンタ機種: SK1-21

ドット密度: 8dot/mm(203dpi)

用紙/印字幅: 用紙幅58mm / 印字幅54mm(432dot)

☐ 上記以外の印字幅を設定する

印字幅: 54 mm 432 dot

ページ高さ: 50 mm 400 dot

印刷マージンの設定

Top: 0 mm 0 dot

Left: 0 mm 0 dot

グリッドの設定

グリッド間隔: 2 mm 16 dot

☐ オブジェクトをグリッド線に合わせる

OK CANCEL

プリンタ機種：

印字するプリンタ機種を選択します。（ドット密度が反映されます）

用紙／印字幅：

印字する用紙／印字幅を選択します。

ご希望の用紙幅を設定する場合、「上記以外の印字幅を設定する」へチェックを入れ
印字幅とページ高さを入力します。

ページ高さ：

印字する用紙長を入力します。

印刷マージンの設定

印字の余白マージンを設定します。

Top： 上余白の設定

Left： 左余白の設定

印字マージンの設定により、印字幅及びページ高さが編集エリアを超えた場合、
そのデータは印字されません。

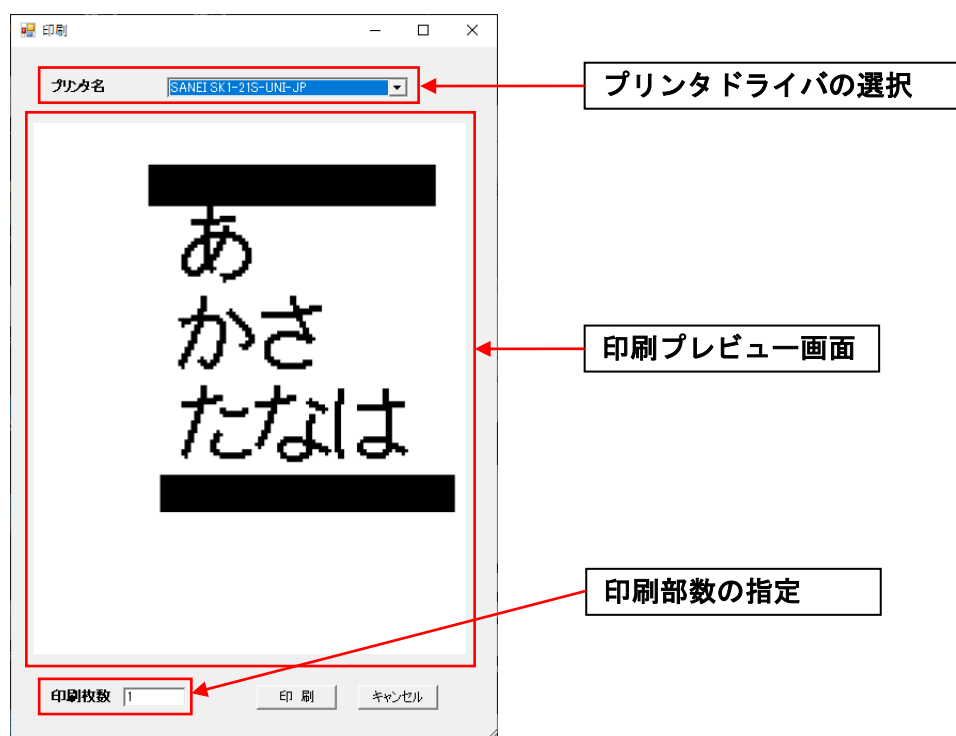
グリッド間隔の設定

編集エリア内のグリッド間隔を設定します。

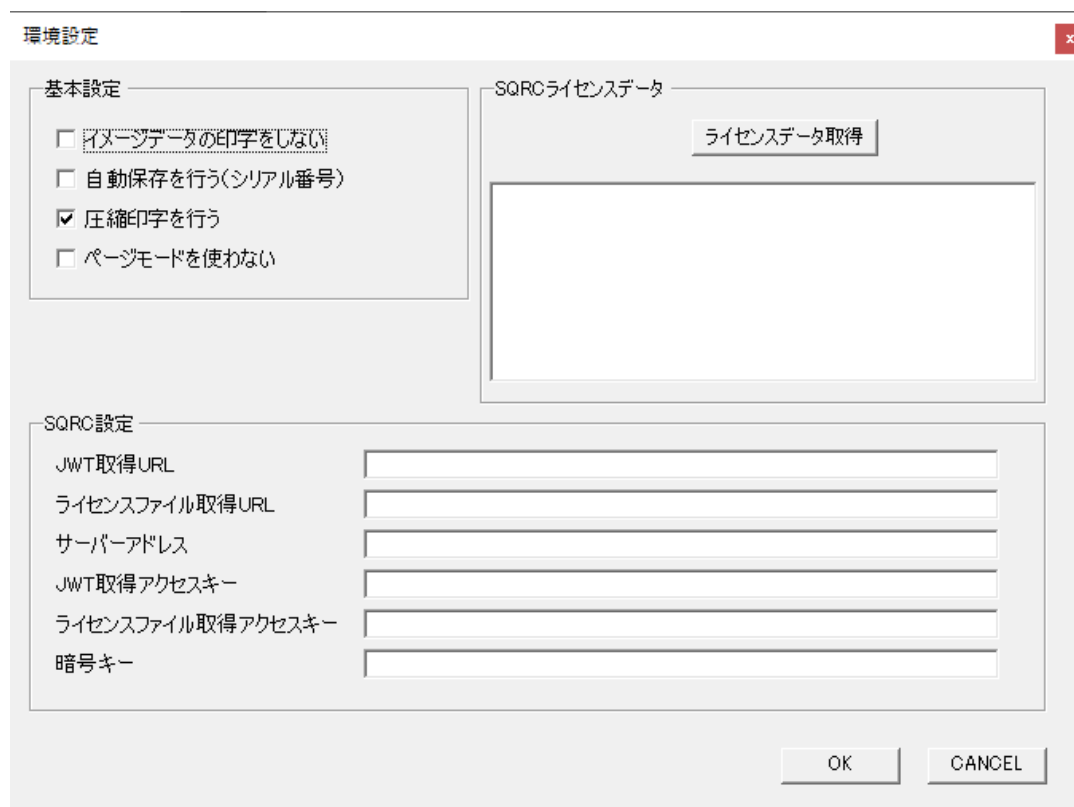
オブジェクトをグリッドの位置に合わせたい場合、「オブジェクトをグリッド線に
合わせる」をチェックします。

3-8. 印刷

プリンタの選択と印字プレビューが確認でき、印字枚数の指定が行えます。印字ボタンから印字が行えます。プリンタ名の選択は、PCにインストールされているプリンタドライバが表示されるので用紙設定で選択されているプリンタ機種に対応するプリンタドライバを指定します。



3-9. 環境設定



基本設定

イメージデータの印字をしない：

チェック時は以下のイメージデータの印刷を行いません。

- ・ Windowsテキストフォント
- ・ 画像データ
- ・ 直線データ
- ・ 矩形データ
- ・ 塗り潰しデータ

自動保存を行う（シリアル番号）：

印字を行う度にシリアル番号を自動更新し上書き保存します。

圧縮印字を行う：

イメージデータを圧縮されたプリントデータに変換し印字を行います。

ページモードを使わない：

印刷時にページモードを使用しません。

重ね合わせが出来なくなる為、プリンタテキストが使用できませんが代わりに用紙長の制限が最大1000mmに拡大されます。

SQRC設定

デンソーウェーブと契約を交わした時に配布されるQプラットフォームライセンス通知書の内容を入力します。

JWT取得URL：

アクセス先URLのJWT取得欄の内容を入力します。

ライセンスファイル取得URL：

アクセス先URLのライセンスファイル取得欄の内容を入力します。

サーバーアドレス：

アクセス先URLのサーバーアドレス欄の内容を入力します。

JWT取得アクセスキー：

アクセスキーのJWT取得用アクセスキー欄の内容を入力します。

ライセンスファイル取得アクセスキー：

アクセスキーのライセンス取得用アクセスキー欄の内容を入力します。

暗号キー：

ライセンス通知書とは別に配布される暗号鍵の内容を入力します。

SQRCライセンスデータ

ライセンス契約の更新時に必要なライセンスファイルを取得する為の項目です。

ライセンスデータ取得：

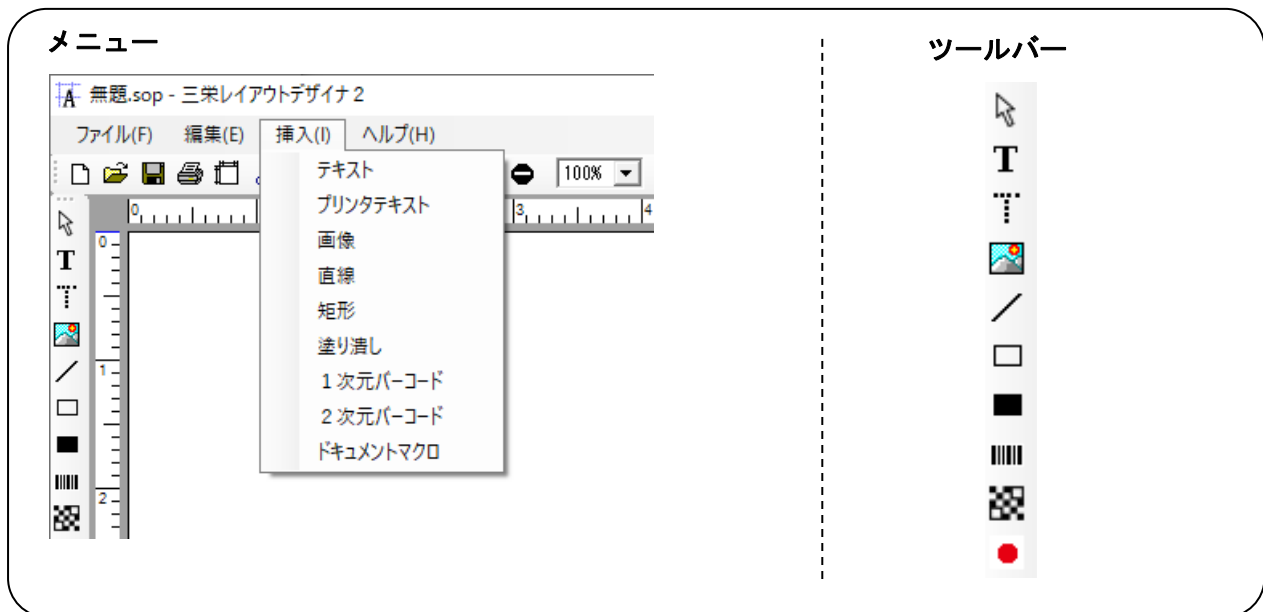
本ボタンをクリックすると下のテキストボックスにライセンスファイルの内容が取得されます。

テキストボックスをコピーしてテキストエディタ等でコピーした内容をファイルに保存してください。

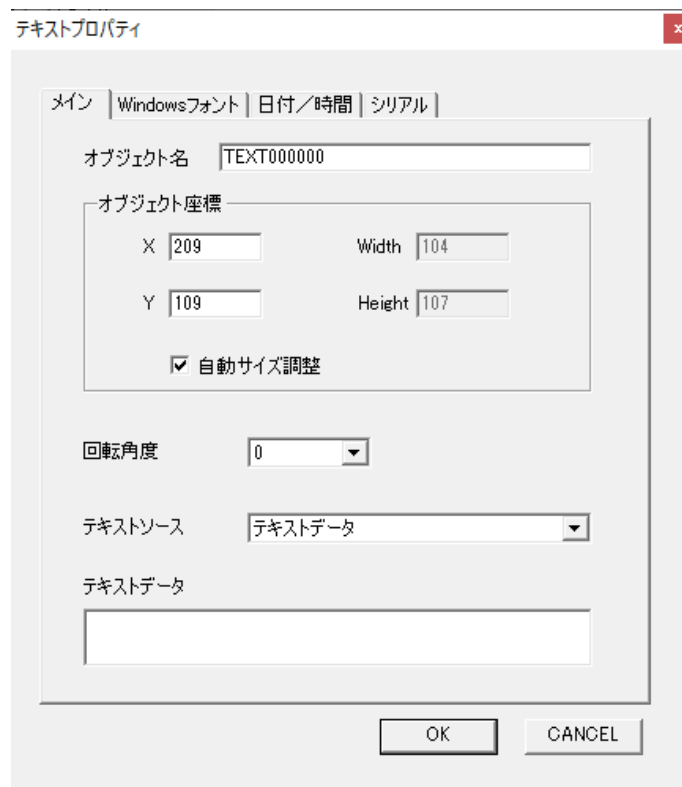
本ボタンをクリックする時は、インターネットにつながった状態で行ってください。

4. オブジェクトの挿入

4-1. 概要



- T テキスト :**
Windowsフォントのテキストオブジェクトを挿入します。
- ⋮ プリントテキスト :**
プリンタフォントのテキストオブジェクトを挿入します。
- 🖼️ 画像 :**
画像オブジェクトを挿入します。
- / 直線 :**
直線オブジェクトを挿入します。
- 矩形 :**
矩形オブジェクトを挿入します。
- 塗り潰し :**
塗り潰しオブジェクトを挿入します。
- |||| 1次元バーコード :**
1Dバーコードのオブジェクトを挿入します。
- 🔲 2次元バーコード :**
2Dコードのオブジェクトを挿入します。
- 🔴 ドキュメントマクロ :**
ドキュメントマクロを設定します。



テキストプロパティは以下のタブメニューで構成されています。

- (1) メイン
- (2) Windowsフォント
- (3) 日付/時間 (*1)
- (4) シリアル (*1)

*1. テキストソースで機能を有効とした場合に設定できます。
設定できない場合は設定無効としてグレーに表示します。

(1) メイン

テキストプロパティ

メイン | Windowsフォント | 日付/時間 | シリアル

オブジェクト名 TEXT000000

オブジェクト座標

X 209 Width 104

Y 109 Height 107

☒ 自動サイズ調整

回転角度 0

テキストソース テキストデータ

テキストデータ

OK CANCEL

オブジェクトの位置やテキストデータの指定・入力を行います。

オブジェクト名：

このオブジェクトの名称を入力します。

オブジェクト座標 (X / Y / Width / Height)：

オブジェクトの座標 (X, Y) およびサイズ (Width, Height) を入力します。

自動サイズ調整：

オブジェクトのサイズをテキストデータに合わせて自動的に調整します。
チェック時は、オブジェクト座標のサイズ入力はグレー表示します。

回転角度：

オブジェクトの回転角度を指定します。

テキストソース：

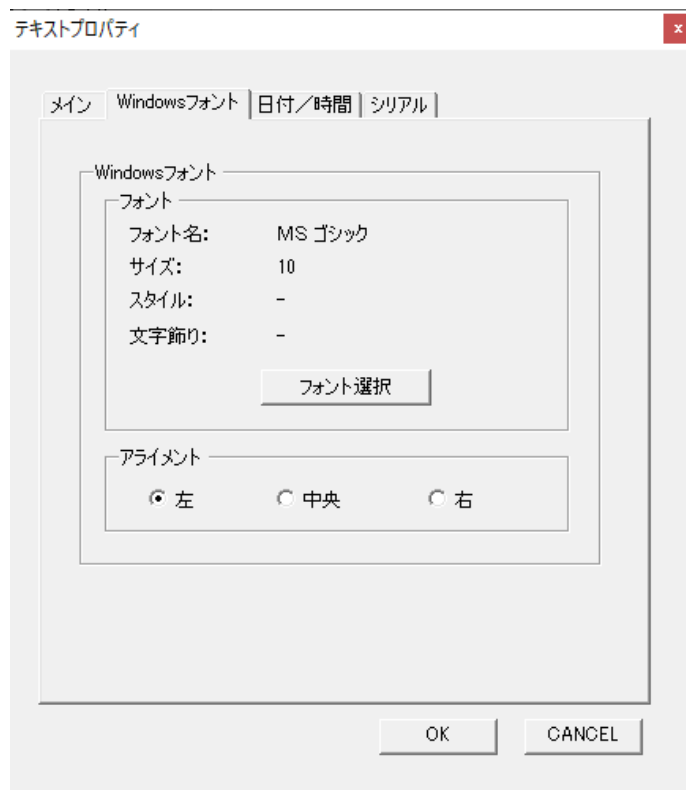
テキストデータのソースを指定します。

テキストデータ：	テキストデータに入力したデータを使用します。
日付/時間：	日付/時間で設定された日時データを使用します。
シリアル：	シリアル番号データを使用します。

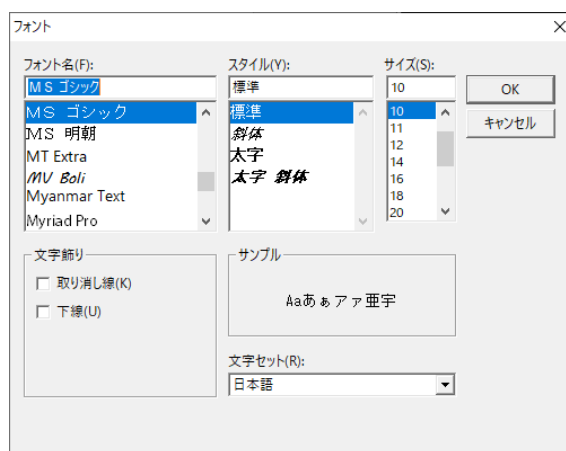
テキストデータ：

印字を行うためのテキストデータを入力します。

(2) Windowsフォント



「フォント選択」ボタンをクリックし、設定ダイアログが開きます。
そこで、フォントタイプを設定します。



使用するフォントはお手持ちのPCにインストールされている必要があります。
実際に印字されたイメージのサイズ感など微妙に異なる場合がありますので、印字レイアウトの確認は、
実際の印字物でご確認下さい。

アライメント（左 / 中央 / 右）：
オブジェクト矩形内でのテキスト位置（左、中央、右）を選択します。

(3) 日付/時間



日付を使用する：

日付の使用を許可（チェック）します。

日付形式：

使用する日付の形式を選択します。

日付オフセット：

数値： 現在の日付に正または負の日付を加えます。
正（将来の日付）／負（過去の日付）を設定します。

単位： 単位を年、月、日から選択します。

時間を使用する：

チェックを入れることで時間の使用を許可します。

時間形式：

使用する時間の形式を選択します。

時間オフセット：

数値： 現在の時刻に正または負の時刻を加えます。
正（将来の時刻）と負（過去の時刻）を設定します。

編集エリア上に表示される日付と時間は、オブジェクトを追加又は変更した時間です。
印字を行う時は印字時の時刻（日付と時間）からオフセット計算し印字します。

(4) シリアル

テキストプロパティ

メイン | Windowsフォント | 日付/時間 | シリアル

シリアル

シリアル番号種類: 10進数

シリアル番号増減: 連番増加

同一シリアル番号の印字枚数: 1

カウンタの増減単位: 1

シリアル書式: #

カウンタ初期値: 1

カウンタ最大値/最小値: 1000

現シリアル番号: 1

同一シリアル番号の現印字枚数: 0

OK CANCEL

シリアル番号の種類：

10進数のみ選択できます。

シリアル番号増減：

印字後におけるシリアル番号の増減を設定します。

カウンタの増減単位： 増減の数値カウンタを設定します。

連番増加： カウンタ最大値/最小値で指定した数値まで、カウンタの増減単位で指定した数値を増加します。

連番減少： カウンタ最大値/最小値で指定した数値まで、カウンタの増減単位で指定した数値を減少します。

同一シリアル番号の印字枚数：

シリアル番号の更新までに印字する枚数を設定します。

シリアル書式：

シリアル番号を印字するための書式を設定します。

“#”の入力でシリアル番号のカウンタを表示及び印字します。

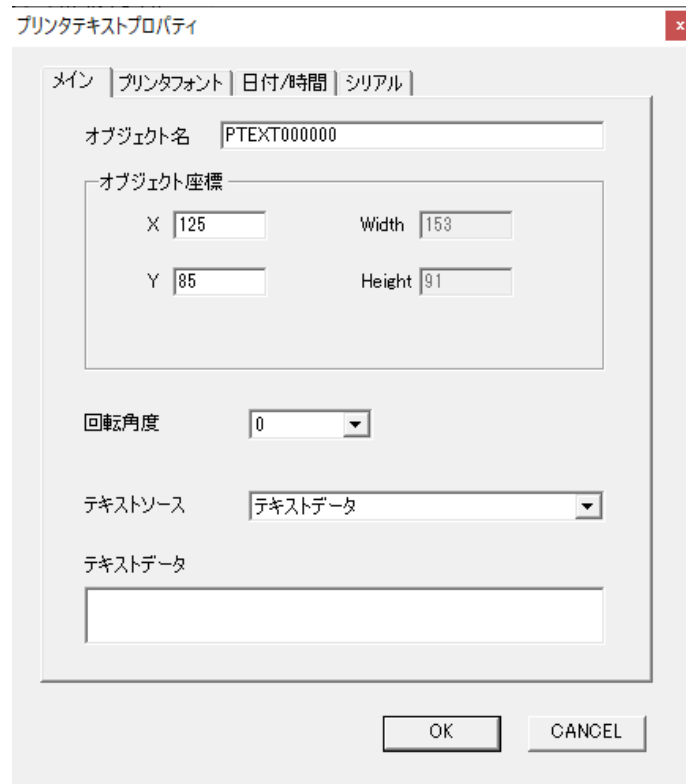
#の後に半角文字“0”を入力した場合、入力の桁数分、0を付加します。

シリアル書式 例①：#

印字結果はゼロサプレスされたシリアル番号をテキストデータで印字します。

シリアル書式 例②：#000

印字結果は“001”など、3桁が揃う様に先頭に0を追加して印字します。



プリンタテキストは以下のタブメニューで構成されています。

- (1) メイン
- (2) プリンタフォント
- (3) 日付／時間 (*1) (設定項目はページ19を参照)
- (4) シリアル (*1) (設定項目はページ20を参照)

*1. テキストソースで機能を有効とした場合に設定できます。
設定できない場合は設定無効としてグレーに表示します。

(1) メイン

プリンタテキストプロパティ

メイン | プリントフォント | 日付/時間 | シリアル

オブジェクト名

オブジェクト座標

X Width

Y Height

回転角度

テキストソース

テキストデータ

OK CANCEL

オブジェクトの位置や印字を行うテキストデータの指定・入力を行います。

オブジェクト名：

このオブジェクトの名称を入力します。
オブジェクトを識別するための役割を担います。

オブジェクト座標 (X / Y / Width / Height)：

オブジェクトの座標 (X, Y) およびサイズ (Width, Height) を入力します。

回転角度：

オブジェクトの回転角度を指定します。

テキストソース：

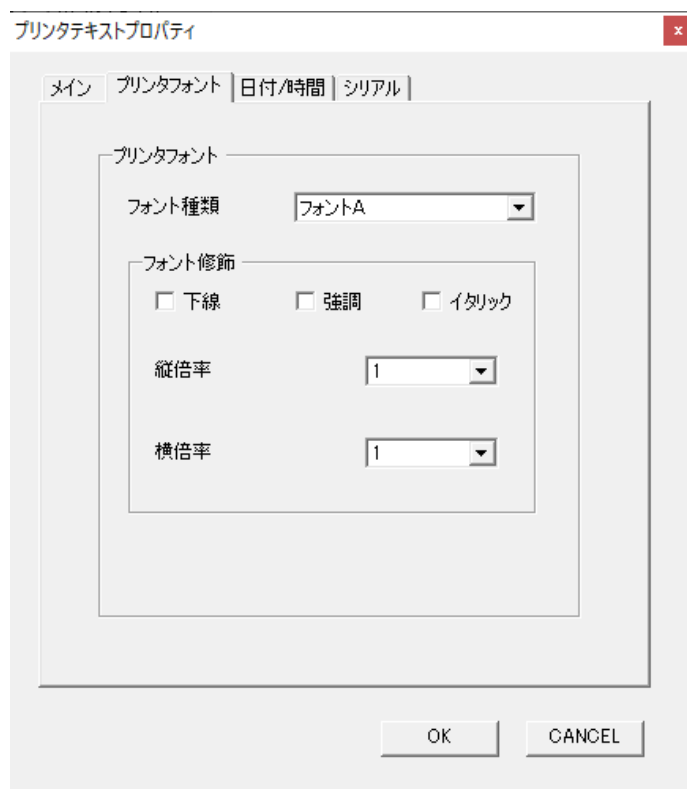
テキストデータのソースを指定します。

テキストデータ： テキストデータに入力したデータを使用します。
日付/時間： 日付/時間で設定された日時データを使用します。
シリアル： シリアル番号データを使用します。

テキストデータ：

印字を行うためのテキストデータを入力します。

(2) プリンタフォント



フォント種類：

プリンタフォントの種類を選択します。

フォント修飾：

プリンタフォントの修飾を選択します。

下線： アンダーラインの修飾を設定します。

強調： 強調文字の修飾を設定します。

イタリック： イタリック文字（斜体文字）の修飾を設定します。

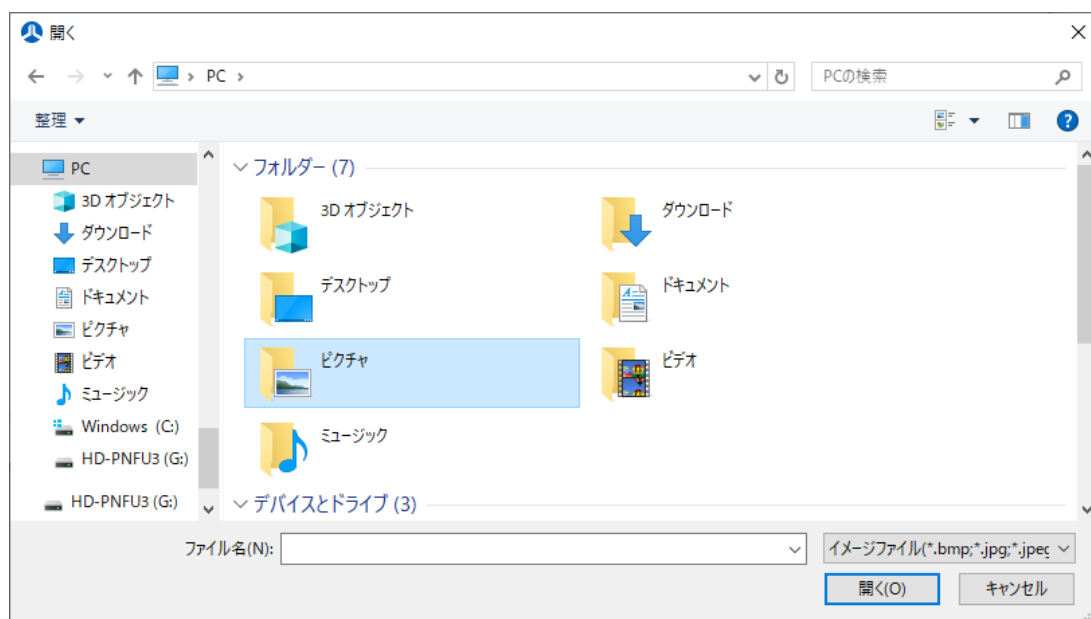
縦倍率： 縦倍率（１～８）を設定します。

横倍率： 横倍率（１～８）を設定します。

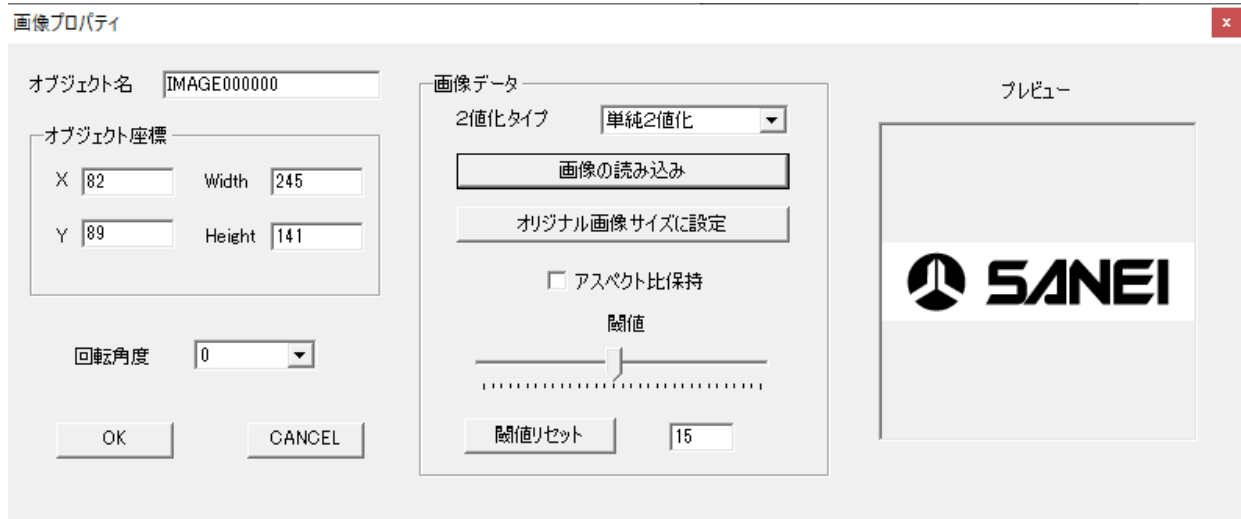
4-4. 画像



「画像の読み込み」ボタンをクリックします。挿入したい画像ファイルを選択します。
選択可能なファイル形式は、bmp / jpg / gif / png です。



読み込まれた画像ファイルはプレビュー画面に表示されます。



オブジェクト名：

このオブジェクトの名称を入力します。

オブジェクト座標 (X / Y / Width / Height)：

オブジェクトの座標 (X, Y) およびサイズ (Width, Height) を入力します。

回転角度：

オブジェクトの回転角度を指定します。

2 値化種類：

画像の 2 値化する方法（単純 2 値化／ディザ変換／誤差拡散法）を選択します。
ディザ変換と誤差拡散法の場合は、オリジナル画像サイズに設定してください。

画像の読み込み：

現設定に応じて画像ファイルを読み込みます。
2 値化種類等の設定変更した場合、その都度「画像の読み込み」を行って下さい。

オリジナル画像サイズに設定：

オブジェクトのサイズを画像データのサイズに合わせて自動的に調整します。

アスペクト比保持：

画像データを拡大・縮小するときに使用します。
縦・横の比率を維持してリサイズします。

閾値：

2 値化の閾値（0～32）をセットします。

閾値リセット：

2 値化の閾値を初期値 15 に戻します。

直線プロパティ

オブジェクト名

オブジェクト始点

X

Y

オブジェクト終点

X

Y

線幅

線種

回転角度

OK CANCEL

オブジェクト名：

このオブジェクトの名称を入力します。

始点 (X / Y)：

直線の始点座標を入力します。

終点 (X / Y)：

直線の終点座標を入力します。

太さ：

線の太さ（ドット単位）を選択します。

線種：

線の種類を実線／破線／点線／一点鎖線／二点鎖線から選択します。

回転角度：

オブジェクトの回転角度を指定します。

矩形プロパティ

オブジェクト名

オブジェクト座標

X	<input type="text" value="264"/>	Width	<input type="text" value="113"/>
Y	<input type="text" value="81"/>	Height	<input type="text" value="129"/>

線幅 線種

回転角度

OK CANCEL

オブジェクト名 :

このオブジェクトの名称を入力します。

オブジェクト座標 (X / Y / Width / Height) :

オブジェクトの座標 (X, Y) およびサイズ (Width, Height) を入力します。

太さ :

線の太さ (ドット単位) を選択します。

線種 :

線の種類を実線／破線／点線／一点鎖線／二点鎖線から選択します。

回転角度 :

オブジェクトの回転角度を指定します。

**オブジェクト名 :**

このオブジェクトの名称を入力します。

オブジェクト座標 (X / Y / Width / Height) :

オブジェクトの座標 (X, Y) およびサイズ (Width, Height) を入力します。

塗り潰し色 :

- 黒 : 指定エリアの塗り潰し色を黒色に指定します。
- 白 : 指定エリアの塗り潰し色を白色に指定します。
- 反転 : 指定エリアの塗り潰し色を反転に指定します。

回転角度 :

オブジェクトの回転角度を指定します。

1次元バーコードプロパティ

メイン | バーコード属性 | シリアル

オブジェクト名: BAR1000000

オブジェクト座標

X	121	Width	240
Y	144	Height	31

回転角度: 0

テキストデータ

テキストソース: テキストデータ

OK CANCEL

1次元バーコードは以下のタブメニューで構成されています。

- (1) メイン
- (2) バーコード属性
- (3) シリアル (*1) (設定項目はページ20を参照)

*1. テキストソースで機能を有効とした場合に設定できます。
設定できない場合は設定無効としてグレーに表示します。

(1) メイン

1次元バーコードプロパティ

メイン | バーコード属性 | シリアル

オブジェクト名: BAR1000000

オブジェクト座標

X: 121 Width: 240

Y: 144 Height: 31

回転角度: 0

テキストデータ

テキストソース: テキストデータ

OK CANCEL

オブジェクト名 :

このオブジェクトの名称を入力します。

オブジェクト座標 (X / Y / Width / Height) :

オブジェクトの座標 (X, Y) およびサイズ (Width, Height)を入力します。

Width: 最大範囲を設定します。

実際のバーコード幅は入力値とバーコードデータから自動的に調整します。

Height: 入力範囲 (2~255)を指定します。

回転角度 :

オブジェクトの回転角度を指定します。

テキストソース :

テキストデータのソースを指定します。

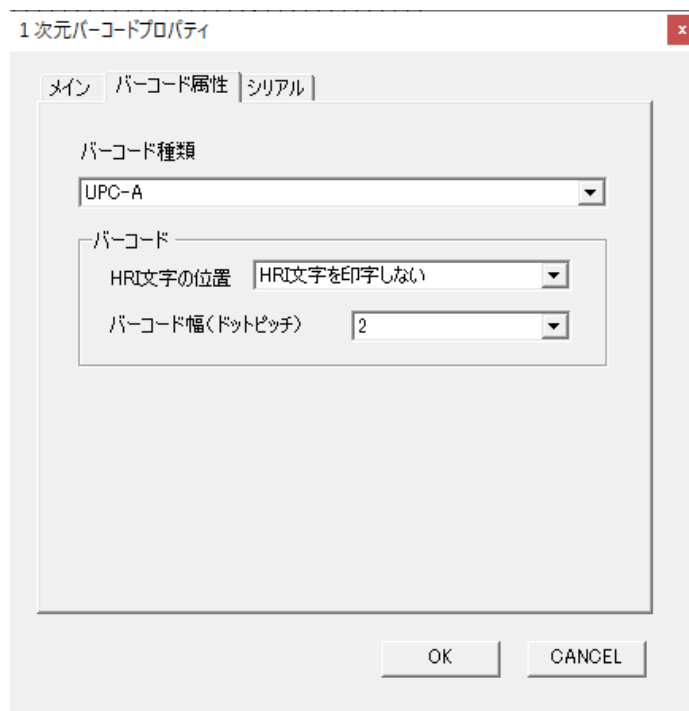
テキストデータ : テキストデータに入力したデータを使用します。

シリアル : シリアル番号データを使用します。

テキストデータ :

1次元バーコードのテキストデータを入力します。

(2) バーコード属性



バーコード種類：

UPC-A／UPC-E／JAN13／JAN8／Code39／ITF／Codabar／Code128／Code93から
バーコードの種類を選択します。

HRI文字の印字位置：

HRI文字の印字位置を選択します。

HRI文字を印字しない

バーコードの上に印字

バーコードの下に印字

バーコードの上下に印字

バーコード幅（ドットピッチ）：

バーコード幅のタイプを選択します。

ナロー／ワイド幅の関係についてはコマンドリファレンスを参照下さい。

2次元バーコードプロパティ

メイン | **バーコード属性** | シリアル | Src

オブジェクト名: BAR2000000

オブジェクト座標

X	132	Width	264
Y	125	Height	177

回転角度: 0

テキストデータ

テキストソース: テキストデータ

OK CANCEL

2次元バーコードは以下のタブメニューで構成されています。

- (1) メイン
- (2) バーコード属性
- (3) シリアル (*1) (設定項目はページ20を参照)
- (4) Src (*2)

- *1. テキストソースで機能を有効とした場合に設定できます。
設定できない場合は設定無効としてグレーに表示します。
- *2. バーコード種類がSQRCだった場合に入力できます。
入力できない場合は入力無効としてグレーに表示します。
SQRCを使用するには別途デンソーウェーブとの契約が必要です。

(1) メイン

2次元バーコードプロパティ

メイン | バーコード属性 | シリアル | Sqrc

オブジェクト名

オブジェクト座標

X	<input type="text" value="132"/>	Width	<input type="text" value="264"/>
Y	<input type="text" value="125"/>	Height	<input type="text" value="177"/>

回転角度

テキストデータ

テキストソース

OK CANCEL

オブジェクト名 :

このオブジェクトの名称を入力します。

オブジェクト座標 (X / Y / Width / Height) :

オブジェクトの座標 (X, Y) およびサイズ (Width, Height) を入力します。

サイズ (Width, Height) はセルサイズとシンボルサイズにより自動的に設定します。

回転角度 :

オブジェクトの回転角度を指定します。

テキストソース :

テキストデータのソースを指定します。

テキストデータ : テキストデータに入力したデータを使用します。

シリアル : シリアル番号データを使用します。

テキストデータ :

2次元バーコードのテキストデータを入力します。

(2) バーコード属性

2次元バーコードプロパティ

メイン | バーコード属性 | シリアル | Sqrc

バーコード種類
QR CODE

設定値

1セルのドット数 3

シンボルサイズ 4 (QR, MicroQR)

ECCレベル L (7%)

列数 1

OK CANCEL

バーコード種類：

QR CODE／MICRO QR CODE／PDF417／MICRO PDF417／DATA MATRIX／MAXI CODE／SQRC
からバーコードの種類を選択します。

1セルのドット数：

1セルあたりのドット数を選択します。

シンボルサイズ：

シンボルサイズを選択します。

ECCレベル：

ECCレベルを選択します。

列数：

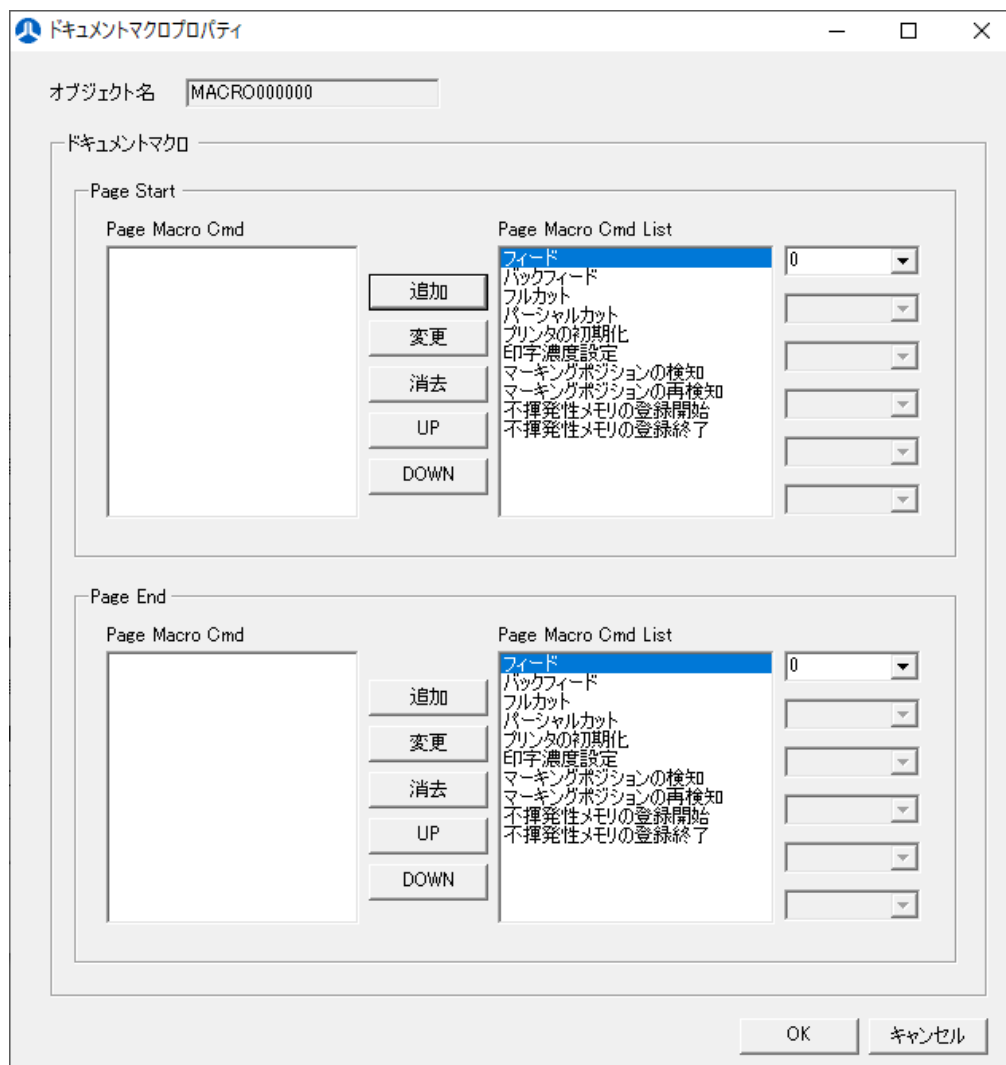
列数を選択します。

(4) Ssrc



非表示テキストデータ：

SQRCの非表示データに設定するテキストを入力します。



オブジェクト名

ドキュメントマクロのオブジェクト名称を表示します。

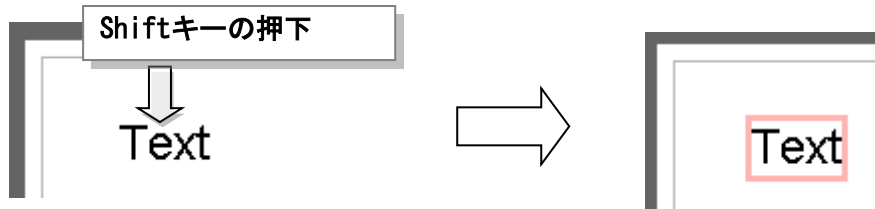
オブジェクト名の変更はできません。

設定可能なマクロは指定されている「プリンタ機種」により異なります。

5. オブジェクトの変更

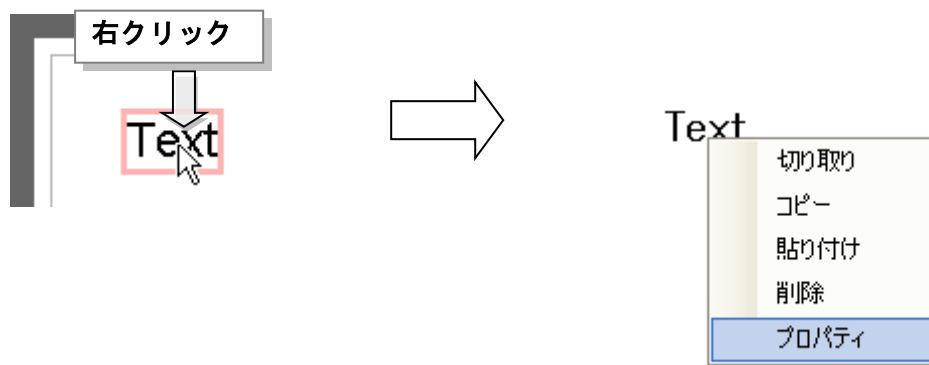
5-1. フォーカス

オブジェクト上でShiftキーを押すとオブジェクトをフォーカスすることができます。



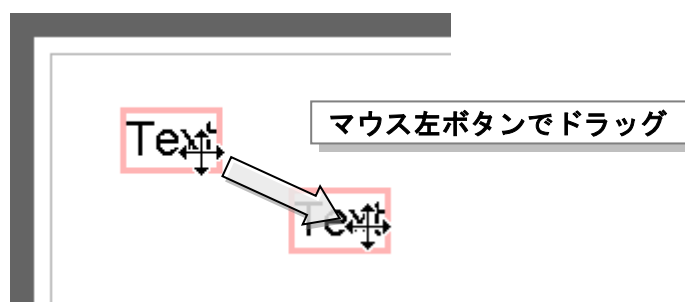
5-2. プロパティの変更

オブジェクトをフォーカスした状態で、マウス右クリックからプロパティを選択します。



5-3. 移動

オブジェクトをフォーカスした状態で、マウス左ボタンでドラッグ移動します。



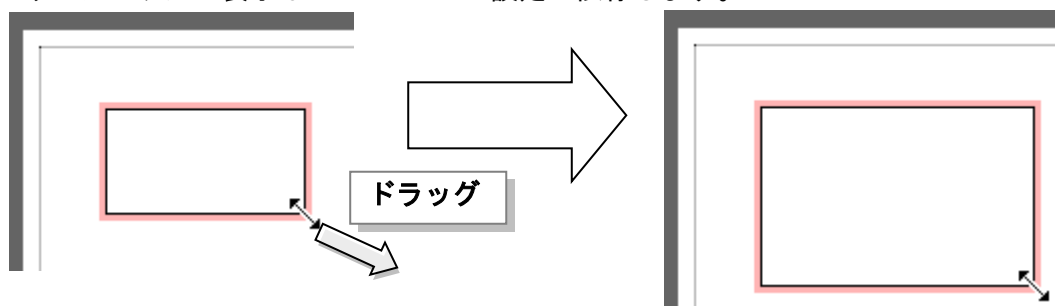
5-4. ステップ移動

オブジェクトをフォーカスした状態で、カーソルキーを押すとステップ移動します。
ステップ移動は、1 ドット単位で上下左右に移動する事が出来ます。

5-5. リサイズ

オブジェクトをフォーカスした状態で、マウス左ボタンで指定箇所をドラッグします。

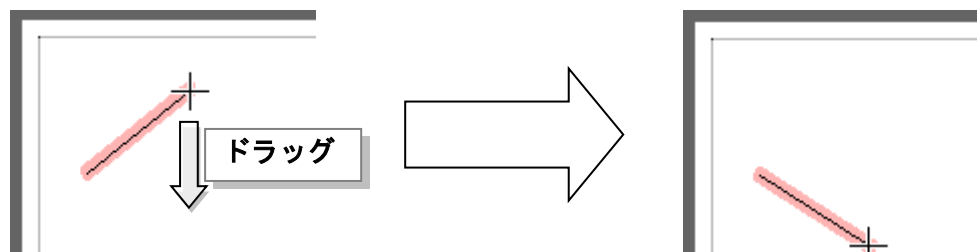
- ・ オブジェクト矩形の右辺付近
幅をリサイズします。マウスカーソルが \longleftrightarrow 変化します。
- ・ オブジェクト矩形の底辺付近
高さをリサイズします。マウスカーソルが \updownarrow に変化します。
- ・ オブジェクト矩形の右下角付近
幅と高さを同時にリサイズします。マウスカーソルが $\swarrow\searrow$ に変化します。
- ・ マウスカーソルの表示は Windows OSの設定に依存します。



- ・ テキストオブジェクト
自動サイズ調整を有効（チェック）の場合、ドラッグによるリサイズは行えません。
- ・ 画像オブジェクト
アスペクト比維持にチェックをしている時、幅と高さが同時に変化します。
- ・ バーコードオブジェクト
QRコードのリサイズは行えません。その他のバーコードは、幅のリサイズが行えません。

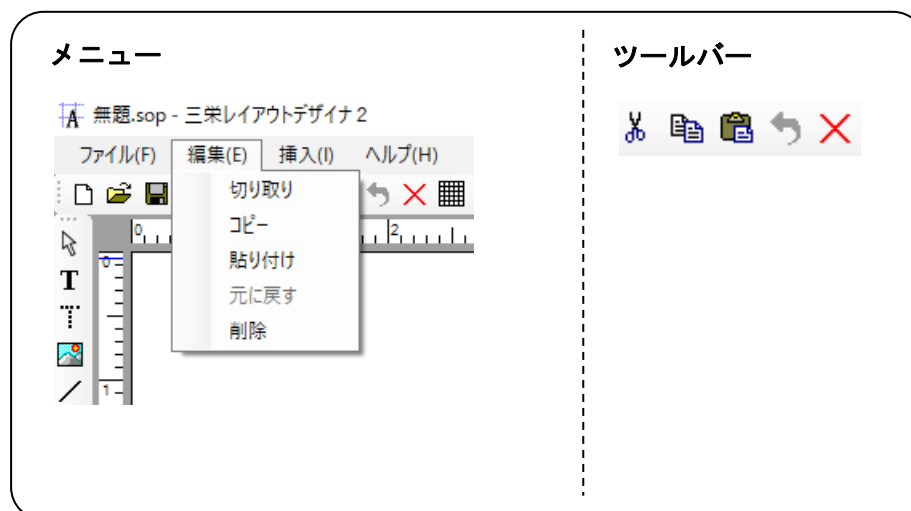
5-6. 直線オブジェクトの始点と終点の移動

始点または終点付近をフォーカスしマウス左ボタンのドラッグにより移動を行います。
マウスカーソルは $+$ に変化します。



6. クリップボードの編集と削除

6-1. 概要



オブジェクトのクリップボードの操作は、編集メニュー又はツールバーから行います。

切り取り :

オブジェクトをクリップボードに転送し削除します。

コピー :

オブジェクトをクリップボードに転送します。

貼り付け :

クリップボード上のデータを貼り付けます。

元に戻す :

編集操作（挿入、削除、移動等）を1つ前に戻します。
レイアウトファイルを読み込みした後、それより前の状態に戻りません。

削除 :

オブジェクトをレイアウトデータから削除します。

6-2. 画像の貼り付け


貼り付けた画像は2値のモノクロ画像オブジェクトとして、レイアウトデータに挿入します。


7. 編集エリアの表示

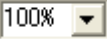
7-1. 拡大・縮小

編集エリアの拡大・縮小操作はツールバーから行います。

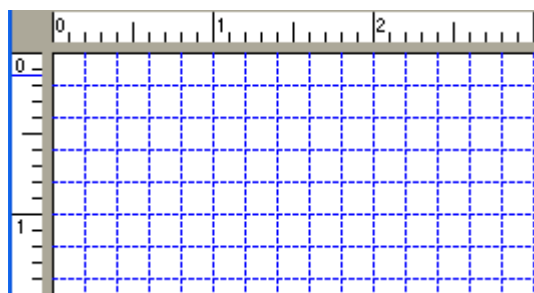


 拡大ボタン：
編集エリアを25%ずつ拡大表示します。

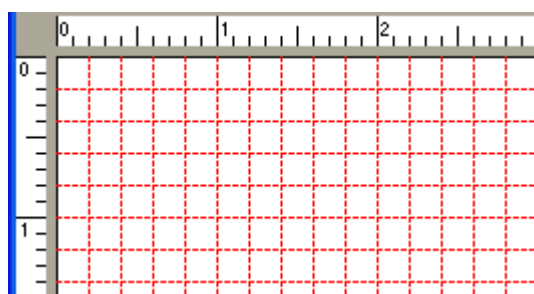
 縮小ボタン：
編集エリアを25%ずつ縮小表示します。

 100% 拡大・縮小バー：
編集エリアを25%～500%の指定範囲で表示できます。

7-2. グリッド表示



- ・用紙設定プロパティから「オブジェクトをグリッド線にあわせる」にチェックすることで、表示されるグリッドラインは赤色に変化します。



8. オブジェクトの選択

8-1. 概要

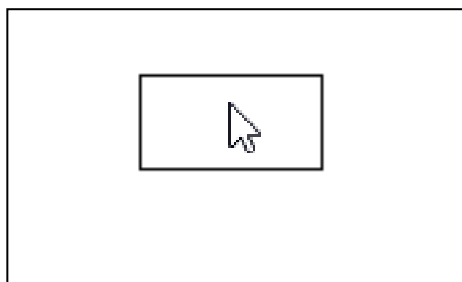


選択モードは、複数のオブジェクトを選択して移動、コピー、削除が行えます。

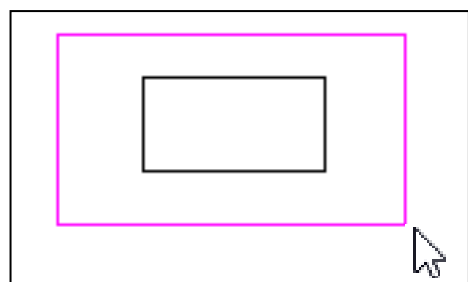
8-2. 操作

・編集エリアからの選択

編集エリアから1つずつ対象オブジェクトをクリックする。又は、オブジェクトを枠で全体を囲いまとめて選択する。



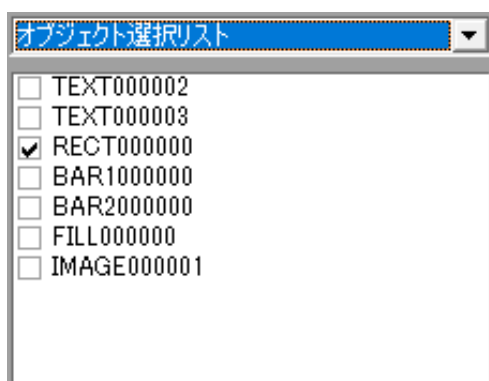
1つずつクリックして選択



グリッドでまとめて選択

・リストテーブルから選択

リストテーブルの「オブジェクトを選択リスト」から対象のオブジェクトにチェックを入れます。



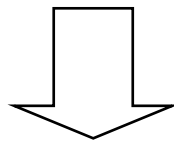
・オブジェクトの選択解除

リストテーブルの「オブジェクトを選択リスト」から対象のオブジェクトにチェックを外します。



The screenshot shows a dialog box titled 'オブジェクト選択リスト' (Object Selection List). It contains a list of objects with checkboxes next to them. The object 'RECT000000' is currently selected, indicated by a checked checkbox. The other objects are not selected.

Object ID	Selected
TEXT000002	<input type="checkbox"/>
TEXT000003	<input type="checkbox"/>
RECT000000	<input checked="" type="checkbox"/>
BAR1000000	<input type="checkbox"/>
BAR2000000	<input type="checkbox"/>
FILL000000	<input type="checkbox"/>
IMAGE000001	<input type="checkbox"/>



The screenshot shows the same dialog box as above, but now the checkbox for 'RECT000000' is unchecked, indicating that the selection has been removed. All other objects remain in the same state as in the previous screenshot.

Object ID	Selected
TEXT000002	<input type="checkbox"/>
TEXT000003	<input type="checkbox"/>
RECT000000	<input type="checkbox"/>
BAR1000000	<input type="checkbox"/>
BAR2000000	<input type="checkbox"/>
FILL000000	<input type="checkbox"/>
IMAGE000001	<input type="checkbox"/>

9. マスク機能

9-1. 概要

・ マウスマスク

マウスマスクを指定されたオブジェクトは、オブジェクトの選択ができなくなります。
変更や削除されたくないオブジェクトに指定を入れる事で編集による誤操作を防ぎます。

・ 印刷マスク

印字マスクを指定されたオブジェクトは、印字から除外します。
編集エリアの画面上に表示させたい注釈や目印を入れる事ができます。

・ 表示マスク

表示マスクを指定されたオブジェクトは、編集エリアから表示されなくなります。
編集エリアがオブジェクトで混在しているとき等、編集エリアをすっきりさせます。

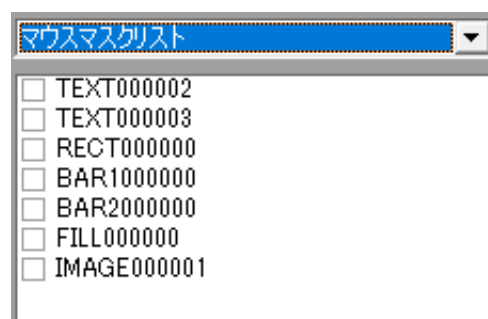
9-2. マスクの指定

リストテーブルの「マスクリスト」から対象のオブジェクトにチェックを入れます。
選択後、対象のオブジェクトにマスクが掛かります。



9-3. マスクの解除

リストテーブルの「マスクリスト」から対象のオブジェクトにチェックを外します。
選択後、対象のオブジェクトにマスクが解除されます。



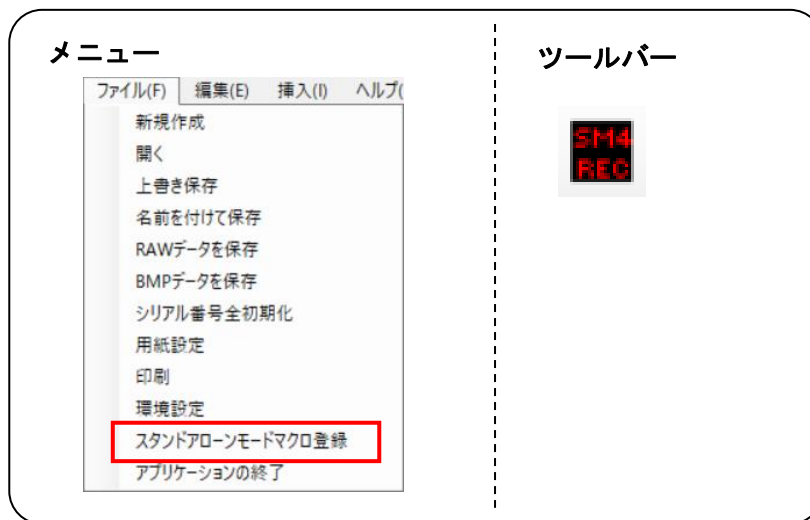
10. スタンドアロンモードマクロ登録機能

10-1. 概要

スタンドアロンモードとは、プリンタ単体でテンプレート化可能なレシート印字を行うためプリンタ内部に印字動作マクロを登録しておき「選択する表示名」を操作キーで選択し、レシート印字を行う事ができるモードです。本マクロ登録ではテンプレート化するための印字動作マクロを登録できます。

10-2. 起動

ファイルメニューから「スタンドアロンモードマクロ登録」を選択します。
又は、ツールバーのアイコンから起動します。



ツールウィンドウ：

スタンドアロンモードマクロ登録

選択番号: 1 選択表示名: 1 yoyaku

マクロコマンド	マクロコマンドリスト	引数	個数
PRT_INIT x 1	フィード	0	1
KANJI_SELECT, 1 x 1	バックフィード		
CR x 9	プリンタの初期化		
FONT_SIZE, 1 x 1	印字濃度設定		
TIME_PRINT, 3 x 1	改行		
CR x 1	スペース		
OFFSET_TIME_PRINT, 101, 7, 3 x 1	位置揃え		
CR x 3	文字サイズ		
ALIGNMENT, 1 x 1	時刻の印字		
FONT_SIZE, 17 x 1	時刻の読み込み		
COUNTER_PRINT x 1	オフセット時刻の印字		
CR x 12	カウンターの印字		
	ゼロサプレス設定		
	カウンタ増減設定		

バーコード文字列: _____

変数用文字列: _____

カウンター初期値: 1

プリンタ名: SANEI SM4-21-UNI-JP

登録 中止 保存 読み込み

選択番号：プリンタに登録するマクロ番号（１～３）を指定します。

選択表示名：プリンタの表示画面に「選択する表示名」に登録します。
最大15桁の半角英数字で入力下さい。

マクロコマンド：選択番号に対応する印字動作マクロのリストを表示しています。

ADD：「マクロコマンドリスト」から選択したデータをマクロコマンドに追加します。

CHANGE：マクロコマンド内で選択されたデータの変更を行います。

DELETE：マクロコマンド内で選択されたデータを削除します。

UP：マクロコマンド内で選択されたデータの１つ上に移動します。

DOWN：マクロコマンド内で選択されたデータの１つ下に移動します。

バーコード文字列：

QRコードの印字データを入力します。
詳細は「10-4. QRコードフォーマット」を参照。

変数用文字列：

「文字列変数の設定」に対応する文字を入力します。
最大15桁の半角数字で入力下さい。

カウンター初期値：

「カウンターの印字」に対応する初期値を入力します。
プリンタの電源再投入により、この初期値に戻ります。

プリンタ名：プリンタドライバーを指定します。

登録：マクロデータをプリンタに登録します。

中止：マクロデータを登録せずに終了します。

保存：マクロデータのファイルをPCに保存します。

ファイルの保存先はレイアウトファイルと同じフォルダ箇所となります。
レイアウトファイルの新規作成時等、レイアウトファイルが無い状態でマクロデータを保存した場合、ファイルはデスクトップ上に保存されます。

マクロデータのファイル名：standalone_macro.dat

読み込み：マクロデータのファイルを読み込みます。

ファイルの読み込み先はレイアウトファイルと同じフォルダ箇所となります。

- ・ **フィード**

機能：指定したドット数のフィードを行います。

引数：紙送りのドット数(1～255)を指定します。

- ・ **バックフィード**

機能：指定したドット数のバックフィードを行います。

引数：紙送りのドット数(1～255)を指定します。

- ・ **プリンタの初期化**

機能：プリンタの初期化を行います。

- ・ **印字濃度設定**

機能：プリンタの印字濃度を設定します。

引数：印字濃度（50～150%）を指定します。

- ・ **改行**

機能：1行分の改行を行います。

- ・ **スペース**

機能：半角1桁のスペースを挿入します。

- ・ **位置揃え**

機能：1行の印字データを指定位置に揃えます。

引数：指定位置（0～2）を指定します。

0：左寄せ

1：中央寄せ

2：右寄せ

- ・ **文字サイズ**

機能：文字の縦・横倍を指定します。

引数： 0：縦横1倍

17：縦横2倍

34：縦横3倍

51：縦横4倍

68：縦横5倍

85：縦横6倍

102：縦横7倍

119：縦横8倍

・ 日付/時刻の印字

機能：日付/時刻の印字を行います。

引数：日付/時刻の印字フォーマットを指定します。

“年月日”を印字する場合、事前に漢字コード選択マクロを指定します。

日付/時刻はプリンタのWLAN/ROUTERモードを有効にしておく事で動作します。

0：YYYY/MM/DD hh:mm

1：YY/MM/DD hh:mm

2：YYYY年MM月DD日 hh時mm分

3：YY年MM月DD日 hh時mm分

4：YYYY/MM/DD

・ 時刻の読み込み

機能：日付/時刻の読み込みを行います。

プリンタのマクロ動作時に自動で日付/時刻の読み込みを行うため通常設定は不要です。

・ オフセット時刻の印字

機能：指定した日付と時刻のオフセットを加算して印字します。

引数1：オフセットのタイプを指定します。

100：月

101：日

102：時

引数2：オフセットする数値を指定します。

オフセットタイプ月：0～12

オフセットタイプ日：0～31

オフセットタイプ時：0～24

引数3：印字する時刻フォーマットを指定します。

0：YYYY/MM/DD hh:mm

1：YY/MM/DD hh:mm

2：YYYY年MM月DD日 hh時mm分

3：YY年MM月DD日 hh時mm分

4：YYYY/MM/DD

・ カウンタの印字

機能：インクリメント機能にあるカウンタメモリを印字します。

・ ゼロサプレス設定

機能：インクリメント機能の印字桁数とゼロサプレスを設定します。

引数1：印字桁数（1～6）を指定します。

引数2：ゼロサプレス（0～2）を指定します。

0：ゼロサプレスの桁位をスペースに変換します。

1：ゼロサプレスを行いません。

2：ゼロサプレスの桁数を左詰めにします。

・カウンタ増減設定

機能： インクリメントの増減を設定します。

引数1： インクリメントのイベントを設定します。
('0' 固定：カウンタ印字の実行時に行います。)

引数2： インクリメントの増減数(1~255)を指定します。

引数3： インクリメントを行うまでの印字回数(1~255)を指定します。

引数4： 0：インクリメントを増加します。

1：インクリメントを減算します。

・漢字コード選択

機能：漢字モードを指定します。

・QRコード

機能： QRコードを印字します。

引数1： シンボルサイズ(1~40)を指定します。

引数2： ECC LV (1=L, 2=M, 3=Q, 4=H) を指定します。

・フルカット

機能：フルカットを行います。

・パーシャルカット

機能：パーシャルカットを行います。

・マーキングポジションの検知

機能：マーキングポジションの検知を行います。

・登録データの一括印字

機能：プリンタに登録されているレイアウトデータを印字します。

・文字列変数の設定

機能：データストリングの文字列変数を設定します。

データストリングは最大8個まで登録可能です。

引数：登録番号(0~7)を指定します。

文字列の入力データは「変数用文字列」に入力します。

・セルサイズの設定

機能：QRコードのセルサイズを設定します。

引数：セルサイズ(3~20)を指定します。

・ブザー音の設定

機能：ブザー音を設定します。

引数：ブザー音の設定文字列は「変数用文字列」に入力します。

ブザー音の設定文字列は、SM4-21/31コマンドリファレンス68ページの
「ESC r」を参照してください。

ブザー音の設定文字列には、1音だけ入れる事が出来ます。

複数の音を設定したい場合は、複数のマクロに分けてください。

QRコードのデータコード欄に入力するデータのフォーマットは以下の通りです。

固定データの場合は、そのまま英数字を入力します。

以下の可変データのフォーマットもデータ指定できます。

- ①日付/時刻データ：無線（WLAN）経由で取得した日付/時刻のデータを入力します。
本機能はWLAN通信有効時に使用できます。

```
$TIM0: YYYYMMDDhhmm
$TIM1: YYMMDDhhmm
$TIM2: YYYYMMDDhhmm
$TIM3: YYMMDDhhmm
$TIM4: YYYYMMDD
```

- ②日付/時刻（オフセット）：

無線（WLAN）経由で取得した日付/時刻のデータにオフセットを付加してデータを入力します。

本機能はWLAN通信有効時に使用できます。

\$TIMの後にオフセットタイプ、オフセット時刻、時刻フォーマットを入力します。

入力例：オフセットタイプ=日、オフセット日=07日、日付タイプ=YYYY/MM/DDの場合
入力するデータは \$TIme074 です。

オフセットタイプ

d：月

e：日

f：時

オフセット時刻

オフセットタイプ月：0～12

オフセットタイプ日：0～31

オフセットタイプ時：0～24

時刻フォーマット

0：YYYYMMDDhhmm

1：YYMMDDhhmm

2：YYYYMMDDhhmm

3：YYMMDDhhmm

4：YYYYMMDD

- ③カウント：印刷ごとにインクリメントされるカウントデータを入力します。

\$INC: インクリメントカウント

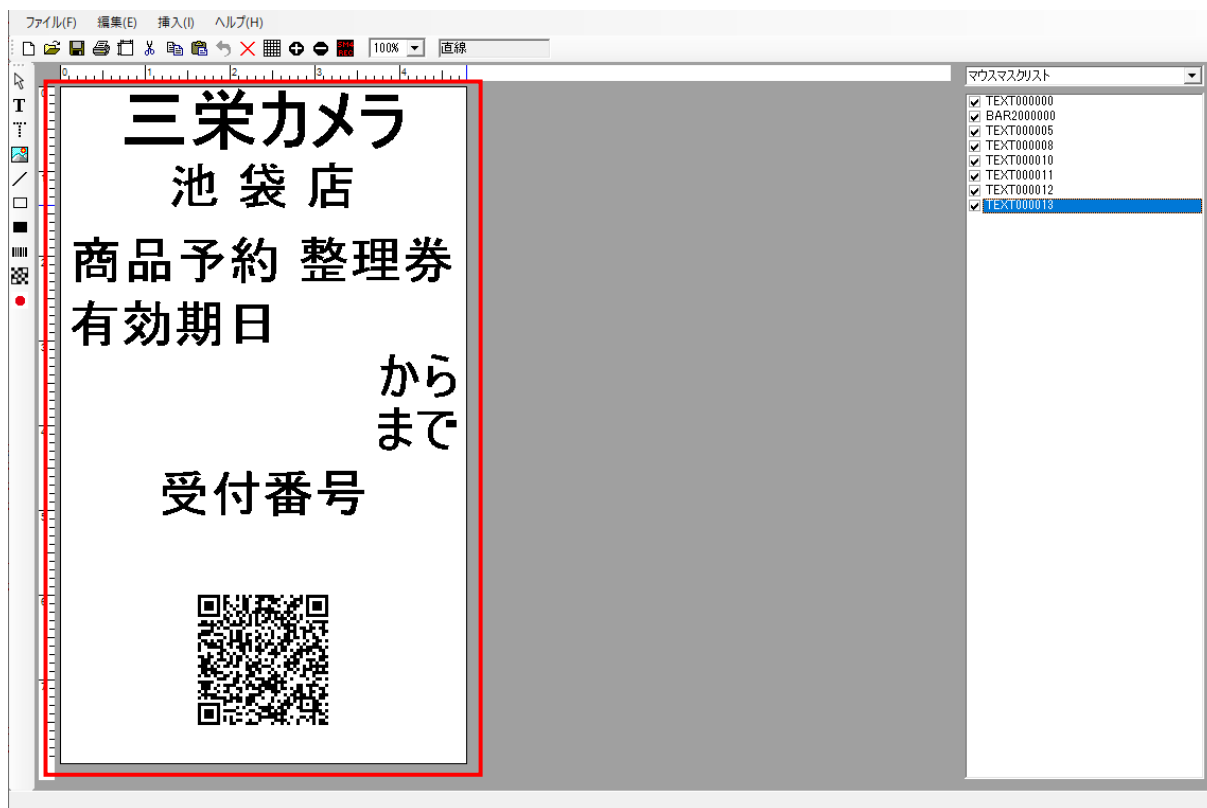
- ④文字列変数：文字列変数の\$STRn（n=0～7）で登録した英数字データを入力します。

\$STR0～\$STR7: 文字列変数で登録した英数字データ

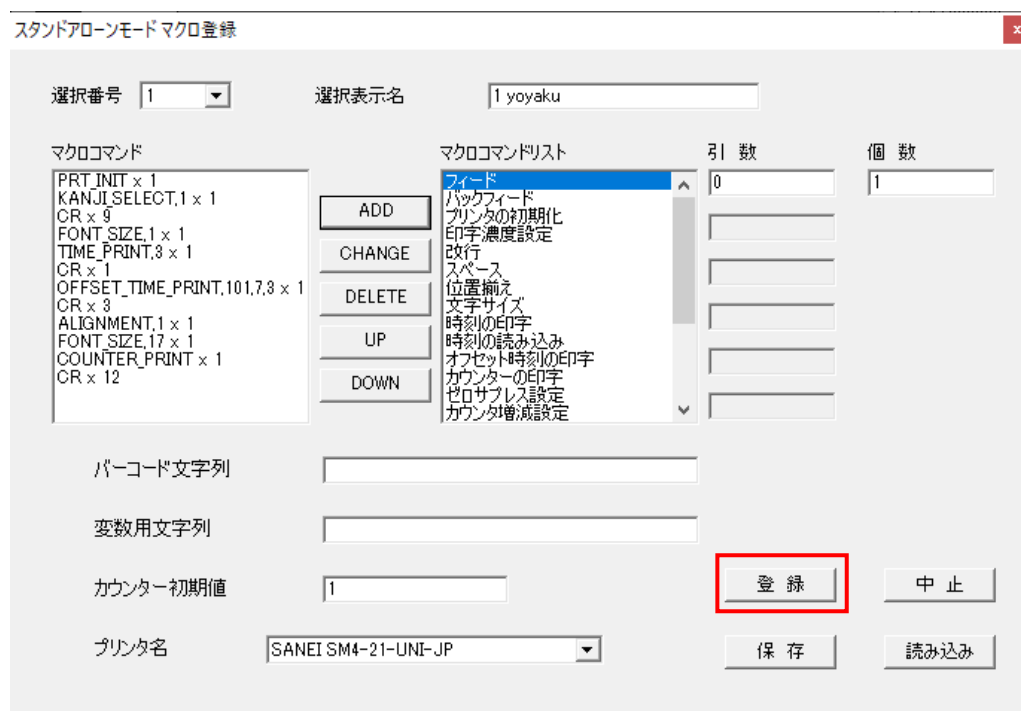
10-5. マクロ登録例

下記にマクロ登録のサンプルデータについて説明いたします。

- ① サンプルのレイアウトファイル(順番待ち発券.sop)を開きます。
- ② 下記赤枠箇所がプリンタに保存する固定の印字レイアウトです。



- ③ マクロ登録画面を開き、登録ボタンを押すとプリンタに保存されます。



以降はプリンタをスタンバイモードで起動して、印刷を実行してください。
※設定詳細はプリンタの技術マニュアルを参照ください。
※スタンバイモードでは事前にプリンタとルーターを無線接続してください。

＜印字結果＞

三栄カメラ
池袋店
商品予約整理券
有効期日

22年09月02日 13時29分

←から

TIME PRINT

22年09月09日 13時29分

←まで

OFFSET TIME PRINT

受付番号

004

COUNTER PRINT



11. レイアウトデータの作成サンプル

実際にサンプルレイアウトを作成しながらLayout Designerの操作方法に関して説明します。
サンプルの印刷を行うプリンタはSM2-41を使用します。

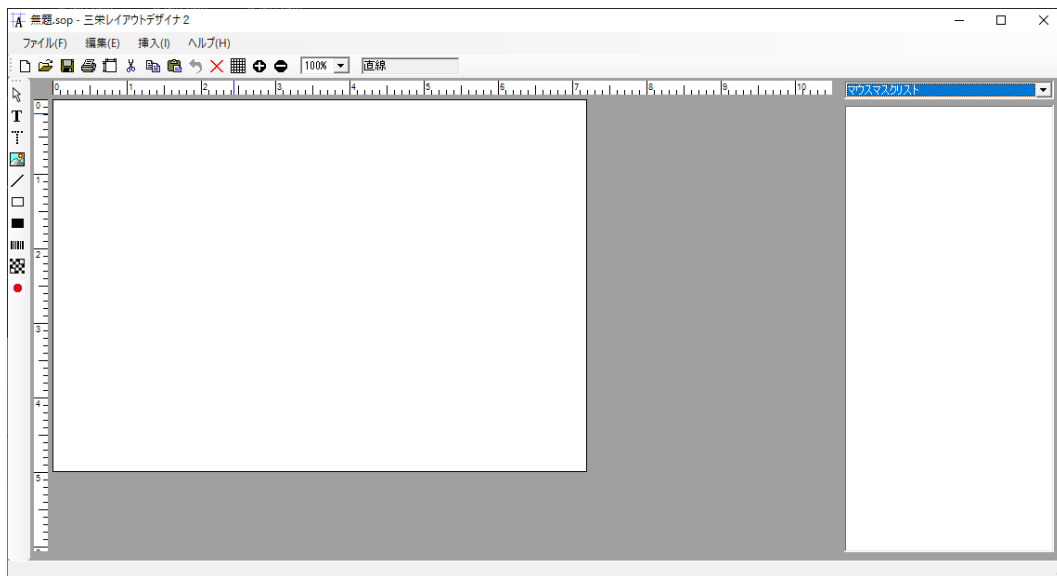
作成するサンプルレイアウトデザインは以下の通りです。



サンプルレイアウトの構成)

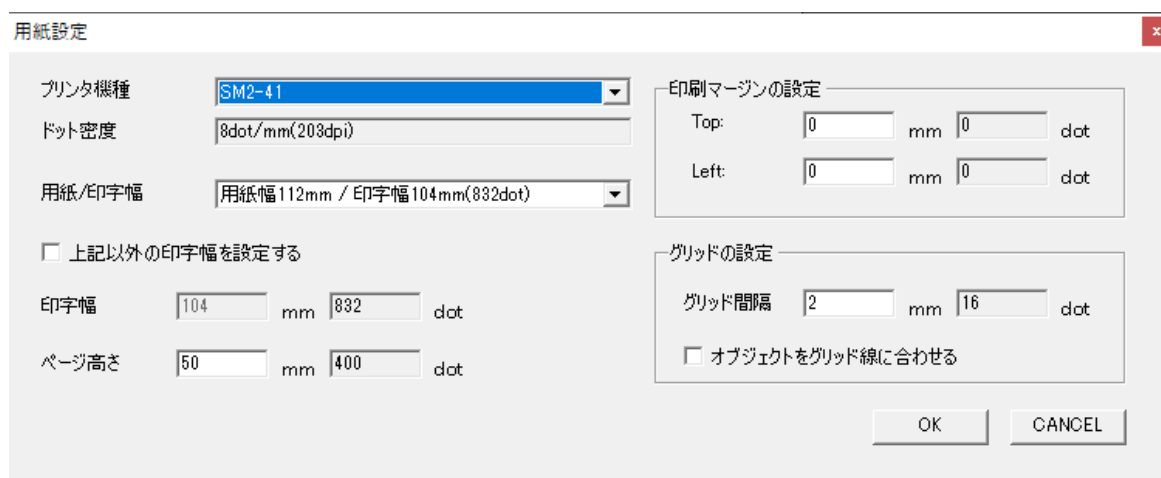
- ・ 画像オブジェクト
データフォーマット : JPEG
画像サイズ : 幅227ピクセル、高さ50ピクセル
- ・ テキストオブジェクト
フォント : MSゴシック
フォントサイズ : 18pt
- ・ 1次元バーコードオブジェクト
バーコード種類 : Code39
バーコードデータ : 1234
- ・ 直線オブジェクト
線の太さ : 4ドット
線種 : 破線
- ・ ドキュメントマクロオブジェクト
Page Endに「マーク位置までの印字」コマンドを挿入

1. Layout Designer2を起動します。



編集エリアの表示倍率の初期設定は100%に設定されています。
必要に応じてツールバーのズームメニューより表示倍率の設定を行なってください。

2. レイアウトの用紙設定を行います。



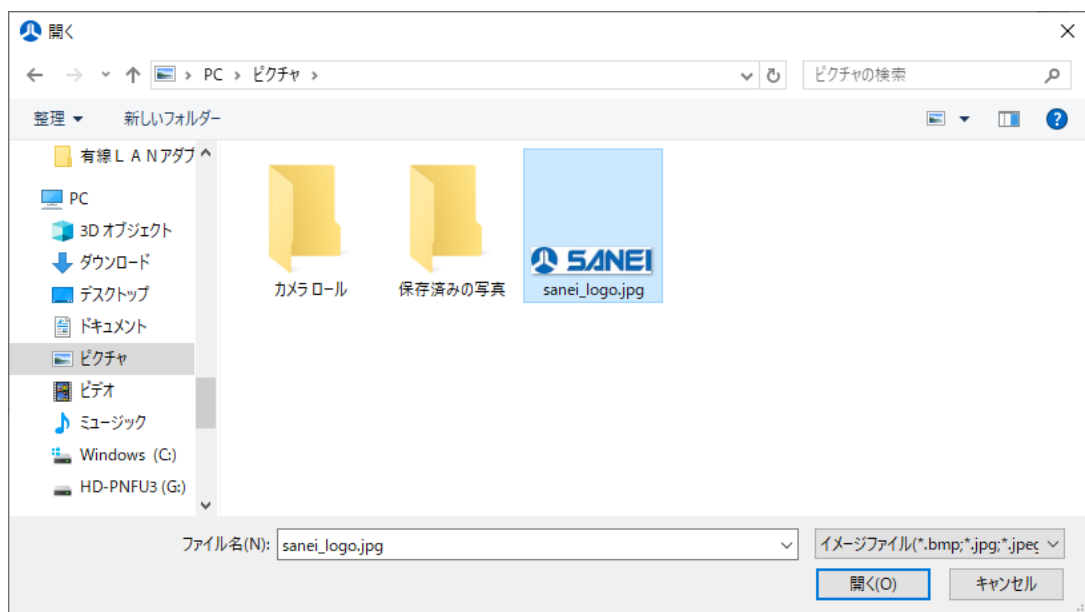
- 2-1. メニューバーの「ファイル」－「用紙設定」を選択、又はツールバーの「用紙設定」ボタンをクリックします。
- 2-2. プリンタ機種一覧から使用するプリンタを選択して下さい。（ここではSM2-41を選択します）
- 2-3. 用紙/印字幅を選択して下さい。（ここでは用紙幅112mm/印字幅104mmを選択します。）
- 2-4. ページ高さを指定して下さい。（ここでは50mmを指定します。）
- 2-5. 「OK」ボタンをクリックします。

3. 画像オブジェクトを追加します。

3-1. メニューバーより、「挿入」－「画像」を選択すると、以下のダイアログを表示します。



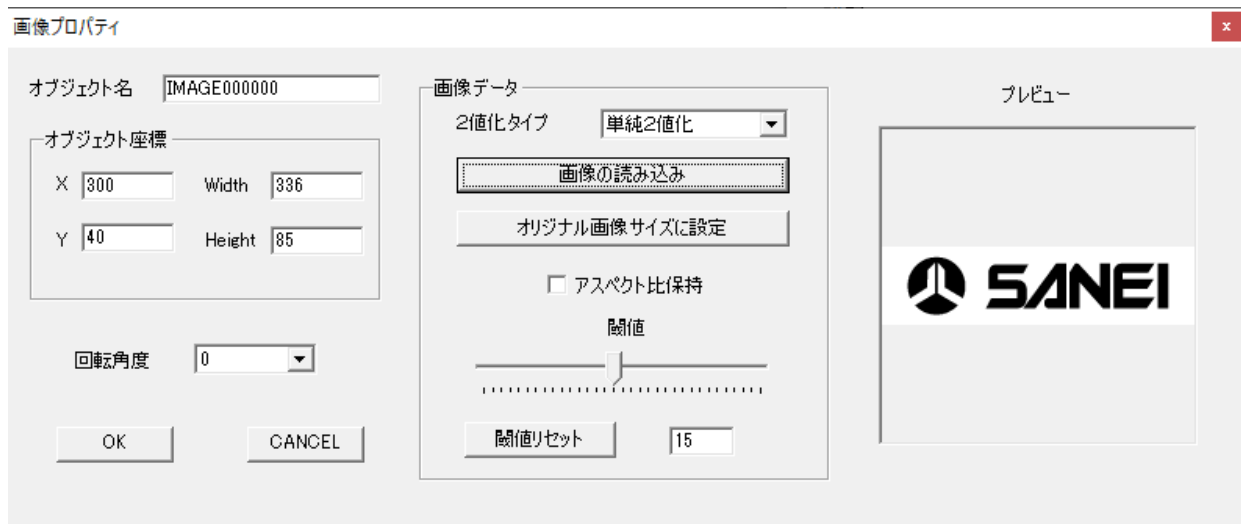
3-2. 画像の読み込みをクリックして挿入したい画像ファイルを選択します。



サポートするファイル形式は、bitmap / Jpeg / Gif / Pngです。

3-3. 選択後、開くボタンを押すと、以下のダイアログが表示します。

オブジェクト座標「X : 300、Y : 40」と入力し、「オリジナル画像サイズに設定」をクリックして「OK」をクリックします。



3-4. 編集エリア内に画像データが表示されます。



4. テキストオブジェクトを追加します。

4-1. メニューバーより「挿入」－「テキスト」を選択すると、以下のテキストフォームを表示します。

テキストプロパティ

メイン | Windowsフォント | 日付／時間 | シリアル

オブジェクト名 TEXT000002

オブジェクト座標

X 0 Width 100

Y 0 Height 100

☒ 自動サイズ調整

回転角度 0

テキストソース テキストデータ

テキストデータ

OK CANCEL

4-2. テキストデータに「ラベル印刷サンプル」と入力します。

テキストプロパティ

メイン | Windowsフォント | 日付／時間 | シリアル

オブジェクト名 TEXT000000

オブジェクト座標

X 300 Width 212

Y 100 Height 195

☒ 自動サイズ調整

回転角度 0

テキストソース テキストデータ

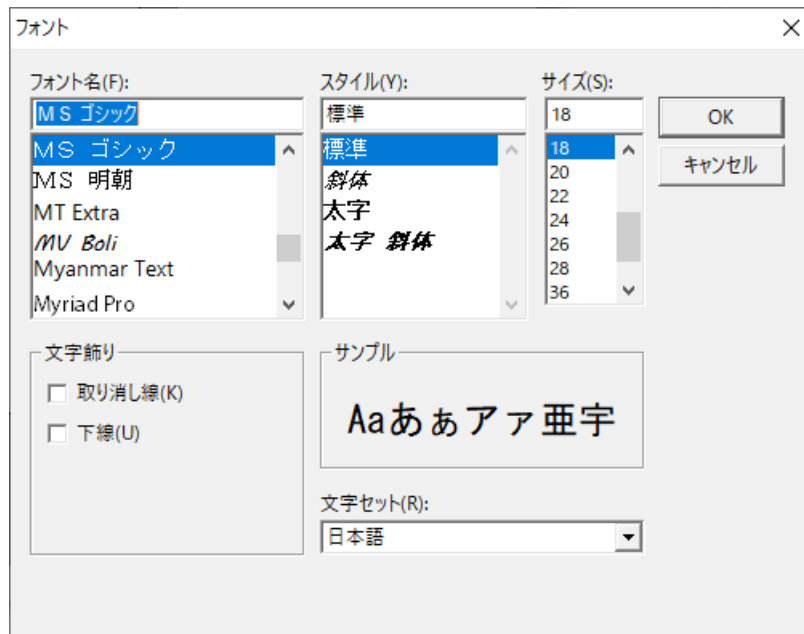
テキストデータ

ラベル印刷サンプル

OK CANCEL

4-3. オブジェクト座標に「X : 300、Y:100」と入力します。

4-4. Windowsフォントタブのフォント選択より、フォントサイズを18に指定して「OK」をクリックします。



4-5. テキストフォームの「OK」をクリックします。

4-6. 編集エリア内にテキストデータが表示されます。



5. 次元バーコードオブジェクトを追加します。

5-1. メニューバーより「挿入」－「1次元バーコード」を選択すると、以下のプロパティを表示します。

1次元バーコードプロパティ

メイン | バーコード属性 | シリアル

オブジェクト名

オブジェクト座標

X	<input type="text" value="0"/>	Width	<input type="text" value="100"/>
Y	<input type="text" value="0"/>	Height	<input type="text" value="100"/>

回転角度

テキストデータ

テキストソース

OK CANCEL

5-2. バーコード種類に「CODE39」を選択します。

1次元バーコードプロパティ

メイン | バーコード属性 | シリアル

バーコード種類

バーコード

HRI文字の位置	<input type="text" value="HRI文字を印字しない"/>
バーコード幅(ドットピッチ)	<input type="text" value="3"/>

OK CANCEL

5-3. バーコードデータに「1234」と入力します。

1次元バーコードプロパティ

メイン | バーコード属性 | シリアル

オブジェクト名: BAR1000000

オブジェクト座標

X	300	Width	270
Y	150	Height	56

回転角度: 0

テキストデータ: 1234

テキストソース: テキストデータ

OK CANCEL

5-4. オブジェクト座標に「X : 300、Y:150」と入力します。

5-5. バーコードプロパティの「OK」をクリックします。

5-6. 編集エリア内にバーコードデータが表示されます。



6. 直線オブジェクトを追加します。

6-1. メニューバーより「挿入」－「直線」を選択すると、以下のダイアログを表示します。



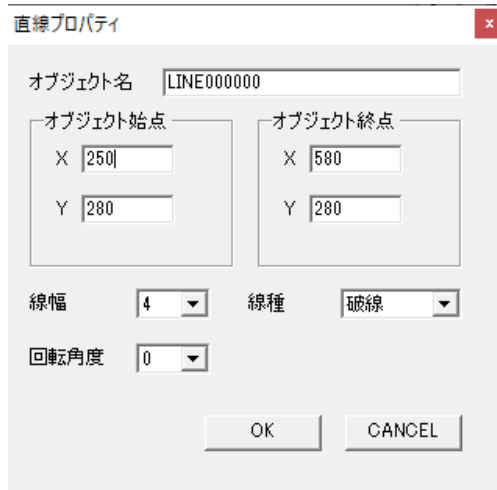
The dialog box titled "直線プロパティ" (Line Properties) contains the following fields and controls:

- オブジェクト名 (Object Name): LINE000000
- オブジェクト始点 (Object Start Point):
 - X: 0
 - Y: 0
- オブジェクト終点 (Object End Point):
 - X: 100
 - Y: 100
- 線幅 (Line Width): 1
- 線種 (Line Style): 実線 (Solid)
- 回転角度 (Rotation Angle): 0
- Buttons: OK, CANCEL

6-2. 太さ「4」を選択します。

6-3. 線種「破線」を選択します。

6-4. 始点座標に「X : 250、Y : 280」、終点座標に「X : 580、Y : 280」と入力します。



The dialog box titled "直線プロパティ" (Line Properties) contains the following fields and controls:

- オブジェクト名 (Object Name): LINE000000
- オブジェクト始点 (Object Start Point):
 - X: 250
 - Y: 280
- オブジェクト終点 (Object End Point):
 - X: 580
 - Y: 280
- 線幅 (Line Width): 4
- 線種 (Line Style): 破線 (Dashed)
- 回転角度 (Rotation Angle): 0
- Buttons: OK, CANCEL

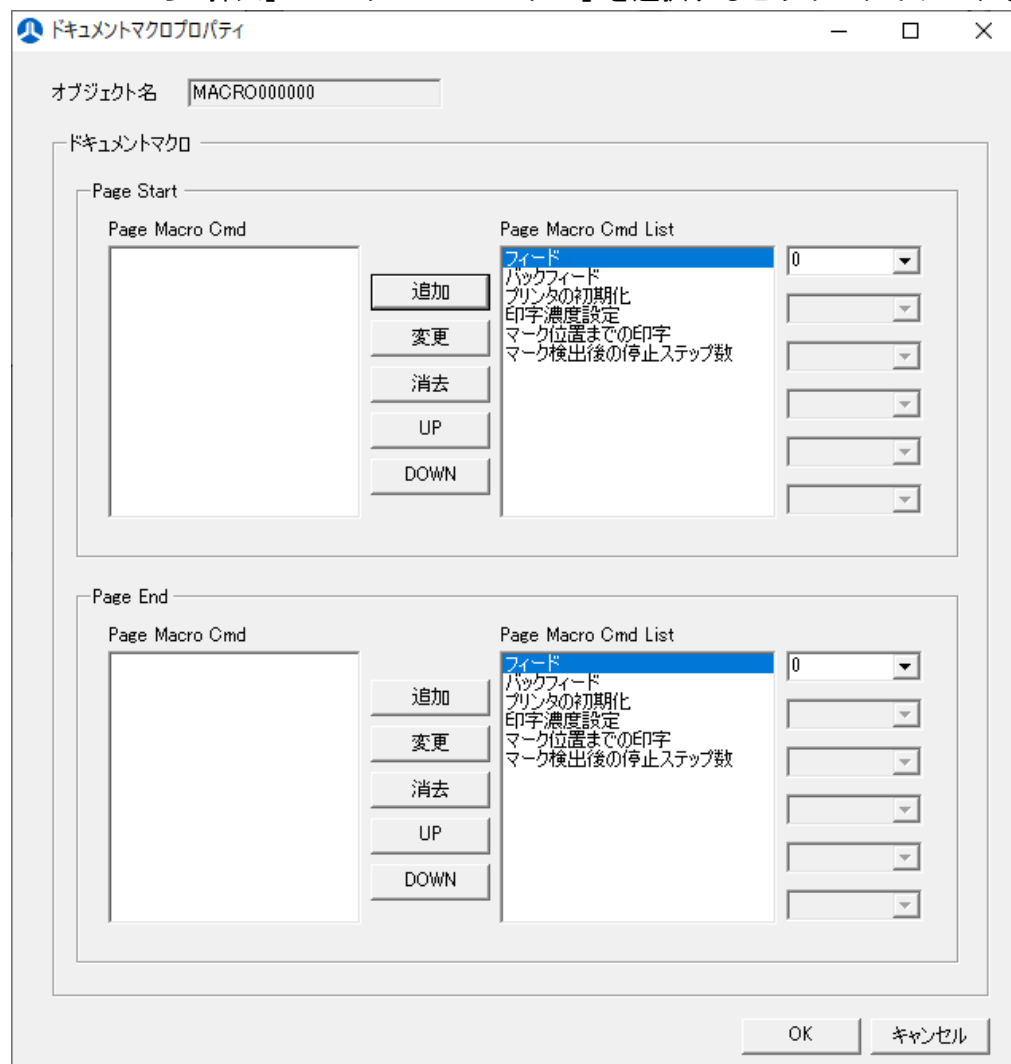
6-5. 直線プロパティの「OK」をクリックします。

6-6. 編集エリア内に直線データが表示されます。

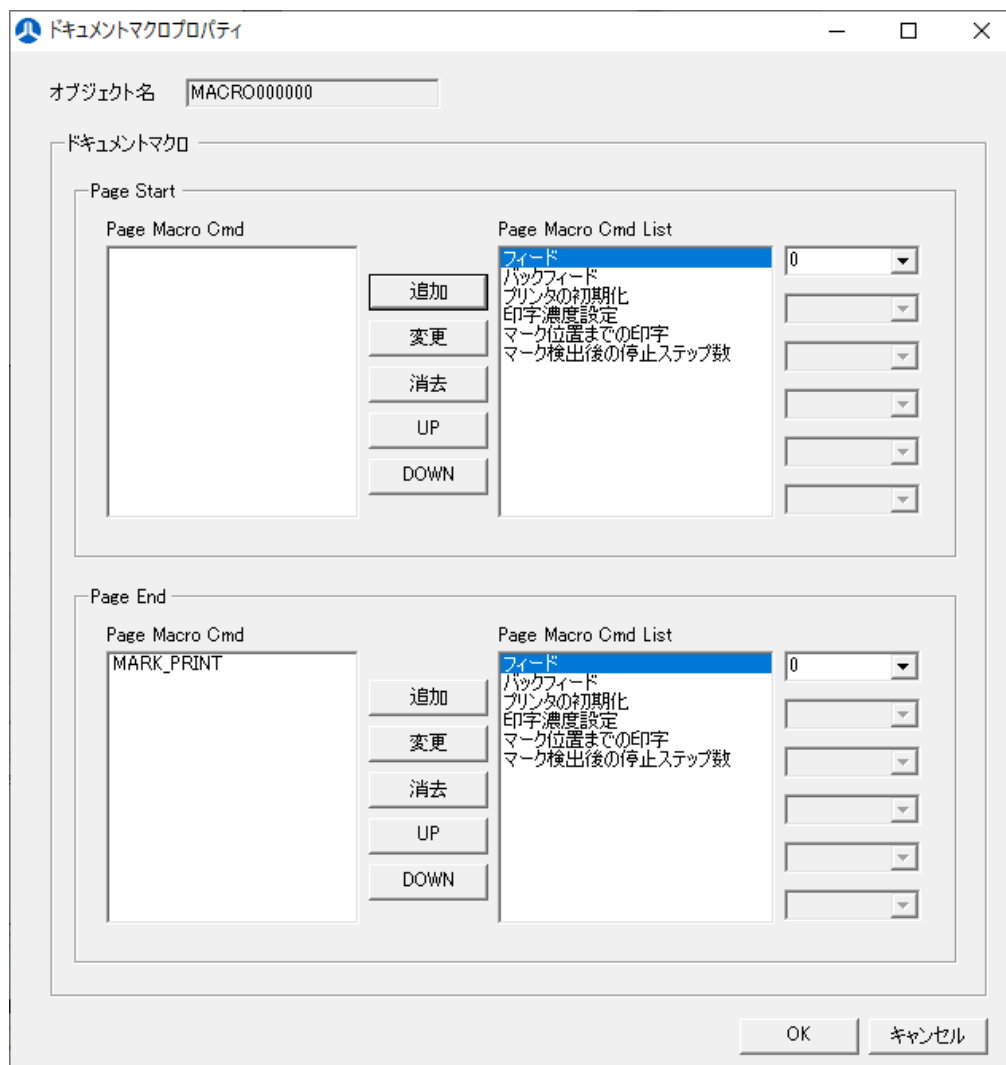


7. ドキュメントマクロオブジェクトを追加します。

7-1. メニューバーから「挿入」-「ドキュメントマクロ」を選択すると以下のダイアログを表示します。



7-2. Page EndにPage Macro Cmd Listから「マーク位置までの印字」を選択し、追加をクリックします。



7-3. Page Macro CmdにMARK_PRINTと表示されます。

7-4. 「OK」をクリックします。

8. レイアウトファイルの印刷実行

8-1. メニューバーより「ファイル」－「印刷」を選択すると、以下のダイアログを表示します。



8-2. 「SANEI SM2-41」プリンタドライバを選択して印刷部数を入力し、OKボタンを押すと印刷を開始します。



印刷結果